

琵琶湖博物館 年報

3号

平成10(1998)年度



LAKE BIWA MUSEUM
琵琶湖博物館

ごあいさつ

1998年度は琵琶湖博物館にとって、3年目にあたります。開館直後の慣れない時期を過ぎて、言わば平常状態に入った最初の年だったとも言えるでしょう。

この年度にも、前年までと同様、いくつかの企画展を開きました。その1つは「近江はトンボの宝庫」でしたが、身近に棲むトンボを材料とし、また開催期間が夏休みだったこともあって、多くの人々に入って貰うことが出来ました。実はこれは、アマチュアの団体である「蜻蛉（トンボ）研究会」の人々が、博物館準備室の時代から数年間かけて、滋賀県内全体のトンボの種類相と分布を詳しく調べて来られたその結果であり、展示そのものに関しても多大の御助力を得たものです。あるいはこのことが、親しみをいっそう感じて貰えた理由かも知れません。「湖と人間」と言う主題を持ち、当初から参画型の博物館を目指してきた当館としては、このようなかたちの調査研究とそれに基づく企画展示にも、今後ともいっそう力を入れて行きたいと考えています。またこの時期には、「南の島のさかなたち」の企画展示も行ないました。

もう1つの企画展示「絶滅と進化：動物化石が語る東アジア500万年」は、当館の学芸員が中国北京の自然博物館と共同研究を行ってきた、その経過に基づくものです。北京博物館から約70点の哺乳類化石がもたらされ、また何人かの人に来て貰って、据え付けも一緒に行ないました。中国からの化石のほとんどは、日本列島内では初公開でもありましたので、一般の人々はもちろん、専門研究者にもなかなか好評でした。このような、海外の博物館と協力して行なう企画展示にも、今後ますます力を注いで行きたいと思っています。

国際交流と言えば、フランスの国立自然史博物館と「相互協力に関する覚書」を交換しました。このフランスの博物館は、350年の歴史を持ち、研究者の数は200名を超え、所蔵する標本は動物だけでも7600万点に及ぶ、世界屈指の博物館です。当方の学ぶべきことは、運営から展示までいろいろありますし、相手方は学問領域を越えあるいは住民参画型の展示に、とくに興味を持っているようです。どんな具体的協力を行なっていくことになるか、今後が楽しみです。

また、新しい環境教育の方向性を考えるために、小学校・中学校・高等学校と連携して、「びわ湖・ミュージアムスクール」を始めました。手探り状態ではありますが、生き活きと眼を輝かせて主体的に活動する様子は、見ていて嬉しく喜ばしいことでした。これはもう1年続けて行ない、プログラムを正式に開発したいものと思っています。

さらにこの年度には、「琵琶湖博物館中長期計画検討委員会」を発足させました。何と早手回しと思われるかも知れませんが、博物館なるものはややもすれば、開館と同時に老化を始めるものです。そんなことのないようにするには、5年ないし10年先を見越して、次の計画を立てなければなりません。開館までに10年近くの準備期間を費やしたことから考えても、次の準備をいま始めるのは、むしろ当然のことなのです。幸に、公募によってお願いした方を含め、第1線で独創的な活動を続けておられる方々に委員になって頂くことができました。自由な観点から論議を進め、今後の方向性を示唆して頂きたいと願って

ます。また委員の参考に供するためにも、館内に「中長期計画ワーキングチーム」を作り、このほうは、運営全般にわたっての現状分析が一応終わったところです。

琵琶湖博物館に関心を持って下さっている、広い範囲のさまざまな方々からの、厳しく建設的なご意見を期待しておりますので、どうぞ宜しく御協力をお願い致します。

1999年7月

滋賀県立琵琶湖博物館

館長 川那部 浩哉

目 次

ごあいさつ	1
I 博物館活動の概要	5
1 研究・調査活動	5
(1) 総合研究	5
(2) 共同研究	5
(3) 専門研究	6
(4) 第1回琵琶湖博物館研究発表会	7
(5) 公表された主な研究成果	8
(6) 研究助成を受けた研究	10
(7) 特別研究セミナー	10
(8) 研究セミナー	11
(9) 研究員の受入	12
(10) 海外調査	13
(11) 研究関連の印刷物	14
(12) 研究に対する賞	14
2 交流・サービス活動	15
(1) 観覧会・見学会等	15
(2) 質問コーナー・フロアトーク・ガーデントーク	16
(3) 教職員等研修会	17
(4) 博物館実習	18
(5) 博物館体験学習	19
(6) 「びわ湖・ミュージアムスクール」モデル事業	19
(7) 体験学習プログラムの開発	21
(8) 「体験学習の日」の活動	21
(9) 博物館入門セミナー、博物館講座、専門講座	22
(10) 田んぼ体験教室	24
(11) 水族展示交流活動	25
(12) フィールドレポーター	25
(13) 夏休み相談室	26
(14) (仮称)ボランティア制度の検討	26
(15) 交流関連の印刷物	27
3 情報活動	28
(1) 館内の情報センター(図書情報利用室)	28
(2) 通信網を利用した館外サービス	28
(3) 資料整備	30
(4) 情報システムの構築	32

4	資料整備活動	33
(1)	収蔵資料点数	33
(2)	新規資料収集	34
(3)	資料整理	35
(4)	燻蒸	36
(5)	保存環境調査	37
(6)	収蔵資料の貸し出し	37
(7)	資料調査研究員	37
(8)	資料評価委員	38
(9)	資料関連の印刷物	38
5	展示活動	39
(1)	常設展示	39
(2)	企画展示	41
(3)	水族トピック展示	43
(4)	ギャラリー展示「ワクワクたんぼ探検」	43
(5)	展示関連の主な印刷物	45
6	国際交流活動	46
(1)	フランス・パリ「国立自然史博物館」と琵琶湖博物館の相互協力に関する覚書の締結	46
II	利用状況	49
1	平成10年度入館者数	49
(1)	総入館者数	49
(2)	学校等入館者数	50
(3)	曜日別入館者数	51
2	来館者アンケート調査結果	52
3	新聞掲載(取材)記録	54
4	雑誌等掲載(取材)記録	58
5	テレビ放映・ラジオ放送(取材)記録	60
III	組織および運営	61
1	組織	61
2	職員	62
3	予算	64
4	滋賀県立琵琶湖博物館協議会	65
IV	平成10年度博物館ダイアリー	66
V	博物館利用のご案内	70

I 博物館活動の概要

1 研究・調査活動

自然と人文など多分野にわたるテーマを総合的に研究する総合研究、総合研究よりも特定の限られたテーマにしぼった研究を行う共同研究、ならびに学芸員個々人の専門的な資質をのばすための専門研究があり、これらが博物館活動を根底から支えている。平成10年度はそれぞれ以下のような研究活動が展開された。

(1) 総合研究

- ①博物館資料の整理・保管と利用に関する研究（代表 内田臣一）
- ②水田生態系と人間活動に関する総合研究（代表 嘉田由紀子）
- ③東アジアの中の琵琶湖、その成立と人間生態系に関する総合研究（代表 中島経夫）
- ④琵琶湖沿岸生態系の動態に関する研究（代表 芳賀裕樹）

(2) 共同研究

- ①子供博物館の展示と利用に関する研究（代表 芦谷美奈子）
- ②社会的要因が内湖の生態系に与える影響（代表 美濃部博）
- ③屋外展示・生態観察池および水路における生物モニタリング（代表 草加伸吾）
- ④高等学校における博物館利用の実践的研究（代表 高橋政宏）
- ⑤住民参加で収集した気象情報の利活用に関する基礎研究（代表 西之園晴夫）
- ⑥生活の科学の接点としての環境調査の手法開発に関する研究－参加型から対話型へ－
(代表 高谷好一)
- ⑦琵琶湖集水域における中世村落の考古・文献資料の総合的評価にもとづく研究
(代表 橋本道範)
- ⑧琵琶湖の生態系の長期的変遷（代表 Frenette, J. J）
- ⑨琵琶湖周辺域における過去1万年間の自然環境と人間活動の変遷（代表 宮本真二）
- ⑩滋賀県内における地上性歩行虫類（オサムシ・ゴミムシ）の分布（代表 八尋克郎）
- ⑪カワウによる水域生態系から陸域生態系への物質移動とその影響（代表 亀田佳代子）
- ⑫古琵琶湖層群の堆積環境と堆積過程－古琵琶湖層群下部におけるデルタ成堆積物の研究
(代表 里口保文)
- ⑬大分県安心院町での長鼻類化石の発掘と解析（代表 高橋啓一）
- ⑭古琵琶湖および海洋における魚類群構造：そのパターンとプロセス（代表 Rossiter, A.）
- ⑮滋賀県における陸産貝類の分布に関する研究（代表 中井克樹）
- ⑯沿岸域モニタリングのための常設型リモートセンシングの運営に関する基礎的研究
(代表 戸田 孝)

- ⑰ユーラシアにおける淡水棲貝類の生物地理に関する研究（代表 高安克己）
- ⑱琵琶湖とその流域の魚類に関する研究（代表 Rossiter, A.）
- ⑲京都市伏見区横大路沼干拓地から産出した大型植物化石について（代表 山川千代美）

琵琶湖博物館総合研究・共同研究審査委員会 委員

氏 名	現 職
遠 藤 修 一	滋賀大学 教育学部教授
鄭 大 聲	滋賀県立大学人間文化学部 教授
西 野 嘉 章	東京大学総合研究博物館 教授
原 田 英 司	京都大学 名誉教授
福 井 勝 義	京都大学大学院人間環境学研究科 教授
山 岸 哲	京都大学大学院理学研究科 教授
伊 庭 治 之	滋賀県総合教育センター研修部 理科教育係長
川那部 浩 哉	滋賀県立琵琶湖博物館 館長
西 岡 信 夫	滋賀県立琵琶湖博物館 副館長

(3) 専門研究

《湖沼研究系》

- ①コイ科魚類の咽頭歯の研究（中島経夫）
- ②琵琶湖における繊毛虫と藻類の共生関係について（楠岡 泰）
- ③Ecology, behavior and evolution of fishes (Rossiter, A.)
- ④ビワコミズシタダミの生態学的研究（松田征也）
- ⑤琵琶湖水流道の時間発展の解明および展示手法の開発（戸田 孝）
- ⑥イバラモの雌雄比および雌雄分布とシュート成長に関する研究（芦谷美奈子）
- ⑦琵琶湖水系における伝統的資源利用とその変化（中藤容子）
- ⑧琵琶湖等における外来生物に関する研究（中井克樹）
- ⑨琵琶湖歴史環境の世界史的評価に関する研究（牧野久美）
- ⑩琵琶湖沿岸域におけるバクテリアの生態（芳賀裕樹）
- ⑪水域と陸域を結ぶカワウの役割—安定同位体比分析を用いた食性解析と物質移動の解明

（亀田佳代子）

- ⑫古琵琶湖層群とその同時代の堆積層に狭在する火山灰層の対比（里口保文）

《集水域研究系》

- ①湖沼共有資源の利用と管理をめぐる比較文化論的研究（嘉田由紀子）
- ②一降雨流出時の水質変化の組成解析（草加伸吾）
- ③シンシュウゾウの形態的特徴について（高橋啓一）
- ④Controlling factors of bloom-forming cyanobacteria in Lake Biwa (Frenette, J. J.)
- ⑤新生代における植物化石の研究（木田千代美）
- ⑥オサムシ上科甲虫の系統分類学的研究および生態学的研究（八尋克郎）

《応用地域研究系》

- ①農村におけるビオトープ研究（水上二己夫）
- ②日本産ナマズ類3種の繁殖行動とその分化（前畑政善）
- ③近江の地域性に関する考古学的研究（用田正晴）
- ④琵琶湖流入河川の流出特性に関する研究（美濃部博）
- ⑤琵琶湖に生息するモクズガニの生態学的研究（桑村邦彦）
- ⑥琵琶湖に棲息するビワマスとアマゴの関係（桑原雅之）
- ⑦最終間氷期以降における古環境変動の高精度復元（宮本真二）

《博物館学研究系》

- ①博物館を活動の場とするボランティアの位置づけ（布谷知夫）
- ②淡水魚類の音響行動について（特にギギの音響行動について）（秋山廣光）
- ③甲殻類の系統分類学と寄生虫学の研究（Grygier, M. J.）
- ④琵琶湖関係古文書に関する歴史的評価研究（橋本道範）
- ⑤新教育課程の総合的学習を支援する博物館の環境学習に関する調査研究（高橋政宏）
- ⑥環境教育における教材開発（江島 穰）

(4) 第1回琵琶湖博物館研究発表会

- ・開催期日：平成10年6月27日（土）10:00～16:30
- ・会 場：琵琶湖博物館ホール

博物館活動の裏側でどのような研究が行われているのかを広く県民に紹介するとともに、また博物館の今後の研究の方向性探るため、「今 琵琶湖研究で求められていること」をテーマに、第1回研究発表会を開催した。

本館学芸職員をはじめ、博物館の外部の研究者による7題の研究発表と県内試験研究機関の研究者7名によるコメント、および中村正久琵琶湖研究所長、西川幸治滋賀県立大学人間文化学部長、川那部琵琶湖博物館長の3者による総括討議が行われた。一般から130名の参加があり、行政関係、博物館関係者あわせて参加者は合計180名余であった。

《プログラム》

開催あいさつ

「今 琵琶湖研究で求められていること」

琵琶湖博物館館長 川那部浩哉

研究発表1

①「環境問題をめぐる行政と住民の相互関係」 岩手県立大学 助教授 脇田 健一

コメント 龍谷大学 教授 田中 滋

②「琵琶湖周辺の風ネットワークからみる風」

琵琶湖博物館 主任学芸員 戸田 孝

滋賀県総合教育センター 研修主事 松井 一幸

環境総合研究所 大西 行雄

コメント 彦根气象台 防災業務係長 能勢 和彦

③「湖上交通が果たした役割の変遷史

—琵琶湖博物館・丸子船交流デスクでの活動をきっかけに—

琵琶湖博物館 主任学芸員 用田 政晴

コメント 滋賀県立安土城考古博物館 大橋 信弥

研究発表2

④「滋賀のトンボの分布」

琵琶湖博物館 主任学芸員 内田 臣一

コメント 滋賀県立大学 助教授 近 雅博

⑤「足跡化石から探る古琵琶湖の動物群」

滋賀県足跡化石研究会 会長 岡村 喜明

琵琶湖博物館 専門学芸員 高橋 啓一

コメント 京都大学 助手 神谷 英利

⑥「琵琶湖周辺の水田を利用するナマズの生態」

琵琶湖博物館 専門学芸員 前畑 政善

コメント 水産試験場 総括専門員 高橋 誓

⑦「琵琶湖における外来魚の生態と現状」

琵琶湖博物館 主任学芸員 中井 克樹

コメント 琵琶湖研究所 主任研究員 濱畑 悦治

総括討議

琵琶湖研究所 所長 中村 正久

滋賀県立大学人間文化学部 学部長 西川 幸司

琵琶湖博物館 館長 川那部浩哉

進行：琵琶湖博物館 総括学芸員 嘉田由紀子

閉会あいさつ

琵琶湖博物館 副館長 西岡 信夫

(5) 公表された主な研究成果

研究成果は、琵琶湖博物館研究業績集第3号に詳しく収録する。ここでは代表的成果のみを掲載した。

・湖沼研究系

Nakajima, T., Tainaka, Y., Uchiyama, J. and Kido, Y. 1998. Pharyngeal tooth remains of the genus *Cyprinus*, including an extinct species, from the Akanoi Bay Ruins. *Copeia*, 1998(4): 1050-1053.

楠岡 泰. 1998. 琵琶湖の共生藻類をもつ繊毛虫の生態：餌条件で形態変化をおこす繊毛虫 *Paradileptus*. 日本陸水学会第63回大会, 松本.

Nakano, S., Kitano, S., Nakai, K. and Fausch, K. D. 1998. Competitive influences

of exotic brook trout *Salvelinus fontinalis* on foraging microhabitat and behavior of sympatric bull trout *S. confluentus* in a Montana stream. In: Yuma, M., Nakamura, I. and Fausch, K. D. [eds.] *Fish Biology in Japan: An Anthology in Honor of Hiroya Kawanabe: Environmental Biology of Fishes, Special Volume*: 345-355.

戸田 孝.1998.琵琶湖博物館の回転実験室－回転系力学の体験的理解を求めて－. 展示学 (日本展示学会誌) 26:46-47.

Kameda, K., Mizutani, H., Koba, K. 1998. Analysis of material flow from aquatic ecosystem to terrestrial ecosystem mediated by the great cormorant by using stable isotope techniques (Preliminary framework). Applications of Stable Isotope Techniques to Ecological Studies, Saskatoon, Canada.

里口保文.1998.甲西町朝国の野洲川河床足跡化石調査報告 (野洲川朝国足跡化石調査団編), 甲西町教育委員会,57pp.

• 集水域研究系

嘉田由紀子.1998.所有論からみた環境保全－資源および途上国開発問題への現代的意味－, 環境社会学研究(4):104-123.

草加伸吾・濱端悦治.1999.朽木実験小流域における皆伐の影響－土壌に関する解析データ－. 滋賀県琵琶湖研究所報,16:19-27.

Uchida, S. 1998. Four species of stoneflies (Plecoptera) from Lake Biwa, Honshu, Japan, and rediscovery of *Miniperla japonica* from the Hii River, Honshu. XIIIth International Symposium on Plecoptera, Tafi del Valle, Argentina. (Poster).

• 応用地域研究系

Maehata, M., K. Nagai and R. Kawabe. 1998. Conservation and Breeding Program of Endangered Japanese Freshwater Fishes. 1998. CBSG Annual Meeting Briefing Book, Conservation Breeding Group(SSC/IUCN),1-3.

用田政晴.1999.丸子船復元製作展示への道,琵琶湖博物館研究調査報告(13):1-12.

Kawamura, K., K. Hosoya and M. Matsuda. 1998. Transparent-scaled Variant of the Rose Bitterling, *Rhodeus ocellatus ocellatus* (Teleostei: Cyprinidae), Zoological Science 15:425-431.

Miyamoto, S., Y. Yasuda and H. Kitagawa. 1998. Palaeoenvironmental Changes in the Last Glacial Maximum around the Wakasa Bay Area, Central Japan. (G. Benito et al. eds., "Palaeohydrology and Environmental Change", John Wiley & Sons), 139-152.

桑原雅之.1998.ピワマス,日本の希少な野生水生生物に関するデータブック(水産庁編).

・博物館学研究系

布谷 知夫.1998.博物館を活動の場とするボランティアの位置付け,博物館學雑誌 24(2):19-28.

Grygier, M.J., K. Nomura. 1998. Cysticolous Myzostomida, *Notopharyngoides platypus* from *Comanthina nobilis* (Echinodermata: Crinoidea), at Kushimoto, Honshu, Japan. Species Diversity, 3(1):17-24.

橋本 道範.1998. 第39回例会報告 地域の歴史資料情報の共有化に向けた試みー

「歴史資料情報のネットワーク化に関する研究」についてー, Network (全国歴史資料保存利用機関連絡協議会近畿部会会報)12:8-9.

(6) 研究助成を受けた研究

中島経夫(分担).地球環境情報収集の方法の確立,日本学術振興会未来開拓学術研究.

宮本真二(分担).長江文明の探求,文部省科研費COE.

牧野久実(分担).系図データからの古代人口の推定,文部省科研費重点研究.

牧野久実(分担).土壌に含まれる有機遺物の採集・分析法の開発,文部省科研費基盤B.

牧野久実(分担).イスラエル国ガラリア湖周辺地域の宗教文化についての総合研究,文部省科研費国際学術研究.

嘉田由紀子(代表).住民参加による水環境調査結果のデータベース化と博物館研究への展開に関する方法論的研究,笹川財団.

嘉田由紀子(代表)・中井克樹(分担).アフリカ・マラウイ湖周辺の人々の湖沼生活文化に根ざした生態系保全の方法開発に関する研究,トヨタ財団.

嘉田由紀子(代表).日米中印・環境と価値観の比較研究,カーネギー財団.

嘉田由紀子(代表).湖沼の水質汚染と生態変化に対する価値観の日米比較ー琵琶湖とメンドータ湖の比較環境史ー,住友財団.

A. Rossiter (分担).タンガニカ湖の魚類群集の可塑性と多様性の維持機構に関する実証的研究,文部省科研費国際学術研究.

内田臣一(代表).琵琶湖沿岸帯の水生昆虫相と生態,河川整備基金.

中井克樹(分担).地球環境攪乱下における生物多様性の保全及び生命情報の維持管理に関する総合基礎研究,文部省科研費COE.

芦谷美奈子(代表).博物館の「ハンズオン」化の手法の検討および開発に関する研究,笹川財団.

(7) 特別研究セミナー

本館を来訪する研究者(湖沼関係、博物館関係、それぞれの専門分野の関係)との交流を通して、博物館の研究活動の充実を図るため、不定期に特別研究セミナーを開催している。1998(平成10)年度の特設研究セミナーは以下のとおりであった。

第11回 1998年4月30日(木) ベルニー・ズボルフスキー (Bernie Zubrowsky) さん (元ポスト

ン子ども博物館ディベロッパー、教育開発センタープロジェクトディレクター)「展示で伝える科学現象—その背景と展示づくりのプロセス—」

第12回 1998年6月10日(水) マリナ・ウォン(Dr. Marina Wong)さん(ブルネイ博物館)
「メリンビン湖の自然・文化遺産の保全」

第13回 1998年9月14日(月) デーブ・マック・ロバーツ(Dr. Dave McL. Roberts)さん
(イギリス自然博物館)「電子景観の中の博物館」

第14回 1998年11月3日(火) コーエン・マーチンス(Dr. Koen Martens)さん(ベルギー王立博物館)「古代湖における進化と分化」

・ルエ・マリ(Dr. Marie Roue)さん(フランス国立自然史博物館)
「聖なる自然の場所; 文化的、生物的多様性」

第15回 1999年3月17日(水) ホルスト・ヤンツ(Dr. Horst Janz)さん(チュービンゲン大学
鉱物・岩石・地球科学研究所)「ドイツの過去にあった古代湖

・シュタインハイム湖と中新世におけるカイミジンコ相の湖内進化」

(8) 研究セミナー

平成10年度の館内の学芸職員によって行われた研究セミナーは以下のとおりであった。

年月日	名 前	演 題
1998年 5月15日(金)	秋山 廣光	米原町ハリヨ調査 その1—滋賀県内のハリヨの分布について(平成9年度分)
	芦谷美奈子	米原町ハリヨ調査 その2—地蔵川の水生植物分布
	芳賀 裕樹	米原町ハリヨ調査 その3—地蔵川の水質について
6月19日(金)	高橋 啓一	日本のマンモス類化石とその研究課題
	楠岡 泰	琵琶湖の共生藻類を持つ繊毛虫の生態: ピノキオの鼻はなぜ長い?
	戸田 孝	教材としての回転実験室—インストラクターへのアンケートから考える—
7月31日(金)	中島 経夫	コイ科魚類の咽頭歯の研究
	草加 伸吾	山地小流域からの硝酸態窒素の流出に及ぼす皆伐の影響
	前畑 政善	琵琶湖産ナマズの産卵生態 その後の進展はあったか?
8月21日(金)	中藤 容子	琵琶湖博物館で所蔵する民俗資料から見えてくること
	八尋 克郎	滋賀県内におけるオサムシの分布
	布谷 知夫	畦畔地を生息の場とする植物群の成り立ちについて
9月18日(金)	用田 政晴	湖上交通史の画期と下物・芦浦地域の史的 position
	亀田佳代子	水域と陸域をむすぶカワウの役割 1.安定同位体比分析を用いたカワウの食性解析
	里口 保文	鮮新—更新統上総層群中に挟在するKd38火山灰層の岩相変化とその堆積環境

10月16日 (金)	内田 臣一	琵琶湖水系のカワゲラ相 (昆虫綱, カワゲラ目)
	宮本 真二	ネパール・ヒマラヤにおける埋没腐植土層の形成と森林破壊
	牧野 久実	何故丸子船は使われなくなったのか?
11月27日 (金)	嘉田由紀子	社会的所有論からみる環境保全
	橋本 道範	中世琵琶湖におけるエリ漁業権の展開と村落共同体—後編
	松田 征也	琵琶湖におけるカワヒバリガイ <i>Limnoperna fortunei</i> の分布
12月18日 (金)	中井 克樹	湖沼沿岸域における生物多様性研究～大型底生生物を対象とした国際生物多様性観測へむけて
	M.J.Grygier	New records of Japanese clam shrimp (Branchiopoda: Spinicaudata and Laevicaudata), with a reevaluation of thoracopodal homonymy in <i>Caenestheriella gifuensis</i>
	水上二己夫	農業農村のいま
1999年 1月22日 (金)	美濃部 博	著名洪水の降雨特性について
	桑原 雅之	ビワマスの産卵に参加する残留型雄の存在
	桑村 邦彦	滋賀県に生息するモクズガニの生態学的研究Ⅱ—湖内で捕獲された標本からの知見—
2月19日 (金)	木田千代美 石田 志朗	京都市伏見区横大路の沖積層から産出した大型植物化石について
	江島 穰	石部高校の実践報告
3月19日 (金)	高橋 政宏	琵琶湖博物館の特色を生かした教育活動の推進をめざして
	秋山 廣光	魚類音響行動学への誘い (ギギの場合)
	A.Rossiter	タンガニーカ湖に生息するカワスズメ科魚類サイアソファリンクス・ファースィファアの交配システム

(9) 研究員の受入れ

- ・辻 彰洋 (文部省特別学術研究員: 滋賀県琵琶湖研究所) 1998年4月1日～1999年3月31日 「付着珪藻群集における階層構造の遷移過程に関する研究」
- ・ワトソン・ムソサ (マラウイ大学哲学科) 1998年9月21日～1998年10月31日 「マラウイ湖と琵琶湖の比較環境社会学的研究—特に住民参加による地域環境管理について—」
- ・佐藤邦生 (近畿大学農学部水産学科) 1998年5月11日～1999年3月31日 「社会的要員が内湖の生物的環境に与える影響」
- ・山根 猛 (近畿大学農学部水産学科) 1998年5月11日～1999年3月31日 「テナガエビ琵琶湖个体群の動態に関する漁業学的研究」
- ・何 舜平 (中国科学院水生生物研究所) 1999年2月1日～1999年3月31日 「DNA分析によるコイ科魚類の系統解析」

(10) 海外調査

川那部浩哉

- 1998年7月12日～27日（フランス、ドイツ、イタリア）博物館協議、生物・文化多様性に関する打ち合わせ、および国際生態学会議
- 1998年8月6日～16日（アイルランド）博物館協議および国際陸水学会議
- 1998年9月7日～27日（南アフリカ、フランス）博物館協議（パリ自然史博物館との調印式）、アフリカ魚類多様性国際会議および生物と文化・多様性会議
- 1998年11月16日～22日（台湾）太平洋学術会議中間会議および博物館協議、生物・文化多様性に関する打ち合わせ
- 1998年12月9日～21日（フランス、モナコ、ポルトガル）博物館協議および生物多様性科学国際研究計画国際観測年会議
- 1998年12月26日～31日（中国）未来開拓「アジア環境保全」海外調査

Rossiter, Andrew

- 1998年12月1日～1999年2月19日（ザンビア国：タンガニーカ湖）文部省科研費国際学術研究「タンガニィカ湖の魚類群集の可塑性と多様性の維持機構に関する実証的研究」

中井 克樹

- 1998年7月8日～29日（ロシア連邦バイカル湖：イルクーツク大学生物学研究所ポリショイ＝コテイ実験所）文部省科研費COE「地球環境攪乱下における生物多様性の保全及び生命情報の維持管理に関する総合基礎研究」

芦谷美奈子

- 1998年10月1日～26日（アメリカ合衆国、イギリス、フランス）琵琶湖博物館共同研究「子ども博物館の展示と利用に関する研究」

内田 臣一

- 1998年8月18日～26日（アルゼンチン：Tafi del Valle）第13回国際カワゲラシンポジウム発表

嘉田由紀子

- 1998年4月22日～30日（アメリカ合衆国）カーネギー会議「環境政策にかかわる価値観の日米中比較研究」
- 1998年9月22日～27日（フランス：パリ）ユネスコ会議「生物と文化・多様性会議」発表

亀田佳代子

- 1998年4月19日～23日（カナダ：サスカチュウワン州サスカチューン）国際学会「安定同位体技術の生態学的研究への応用」発表
- 1998年7月18日～26日（イタリア：フィレンツェ）第7回国際生態学会発表
- 1999年3月21日～28日（インドネシア）国際協力事業団インドネシア・生物多様性保全計画短期派遣専門家として猛禽類の調査

Grygier, Mark Joseph

- 1998年7月19日～30日（オランダ：国立ライデン自然史博物館、アムステルダム大学、イギリス：大英自然史博物館）自然史系標本の利用の実態、標本管理の状況、および欧州の主たる3博物館における慣習の実態調査

高橋 啓一

- 1998年10月16日～30日（中国：北京市）企画展「絶滅と進化」準備のための事前調査

牧野 久実

- 1998年7月13日～8月17日（イスラエル：ガリラヤ湖）文部省科研費「イスラエル国ガリラヤ湖周辺地域の宗教文化についての総合研究」

宮本 真二

- 1999年1月12日～21日（アメリカ合衆国）全国科学博物館協議会による「科学系博物館における環境教育に対する取り組みに関する海外先進施設調査」

(11) 研究関連の印刷物

琵琶湖博物館研究調査報告10号「滋賀県のトンボ」蜻蛉研究会編、1998年8月発行 283頁、A4版、3,000部

琵琶湖博物館研究調査報告11号「水がはぐくむ生命（いのち）－琵琶湖と魚と人間・東アジア的世界のなかで－」中島経夫・中藤容子編、1998年4月発行、94頁、A4版、2,000部

琵琶湖博物館研究調査報告13号「よみがえる丸子船」用田政晴・牧野久実編、1999年3月発行、96頁、A4版、1,000部

琵琶湖博物館業績目録2号「1997年1月から1998年3月までの業績」滋賀県立琵琶湖博物館編、1999年3月発行 80頁、A4版、1,000部

琵琶湖博物館研究発表会プログラム 1998年6月発行 20頁、A4版、300部

琵琶湖博物館研究発表会ポスター A2版、1,000部

琵琶湖博物館研究発表会チラシ A4版、3,000部

(12) 研究に対する賞

布谷和夫、1999年3月、第1回全日本博物館学会賞 受賞

「参加型博物館に対する考察－琵琶湖博物館を材料として－」全日本博物館雑誌 23(2):15-24.

2 交流・サービス活動

博物館の研究や資料収集などの成果をできるだけ多くの利用者に伝え、博物館をうまく有効に利用してもらうことで、博物館と利用者との双方向の情報交換と交流を行う場をつくり上げていくため、自然観察会や博物館入門セミナー、あるいは学校教育との連携のための教育研修の受入などさまざまな活動を実施した。



(1) 観察会・見学会等

平成10年度は、博物館内およびその周辺で行うミュージアム観察会4件、県内とその周辺で行うフィールド観察会11件、博物館の舞台裏を見学する博物館探検2件の合計17件の行事を計画した。うち2件は、雨天等によりやむなく中止した。各事業のタイトルや参加者数は下表のとおりであった。

1) ミュージアム観察会

タイトル	開催日	場所	参加人数(人)
ミクロな生き物観察会	7月19日(日)	博物館周辺	21
琵琶湖の魚は何を食べているか	8月2日(日)	博物館周辺	30
琵琶湖の貝を調べてみよう	8月23日(日)	博物館周辺	33
琵琶湖の水鳥観察会	2月7日(日)	博物館周辺	23

2) フィールド観察会

タイトル	開催日	場所	参加人数(人)
春のブナ林探訪	5月3日(日)	余呉町上丹生	14
ほたるのお宿	6月6日(土)	山東町	28
昔の草津を歩く観察会	6月21日(日)	草津駅周辺	14
川のお魚探検	7月19日(日)	近江町宇賀野	15
川の生き物探検	7月26日(日)	マキノ町知内川	8
トンボをつかまえよう	8月9日(日)	堅田	38
永源寺ダムを歩く	9月27日(日)	永源寺ダム周辺	雨天中止
滋賀県の地学散歩	10月4日(日)	石部町	2
化石の採集会	10月18日(日)	三重県大山田村	雨天中止
秋の里山観察会	11月1日(日)	堅田周辺	13
ビワマス産卵観察会	11月8日(日)	マキノ町知内川	28

3) 博物館探検

タイトル	開催日	場所	参加人数
歴史展示の舞台裏	11月21日(水)	博物館	18名
水族館探検隊	3月7日(日)	博物館	43名

(2) 質問コーナー・フロアトーク・ガーデントーク

当館では、開館当初から“学芸員の顔が見える博物館”づくりを目指しているが、その一環として情報センターの図書室の一角に「質問コーナー」を設置している。そして、開館日には学芸職員が日替わりでここに常駐して、一般の方々からの質問に回答した。なお、担当学芸職員が回答可能な質問についてはその場で答え、わからない質問についてはそれぞれの専門の学芸職員から回答した。質問内容についてのデータは、下表に示したとおり、1998年度は297日間で801件（2.69件/日）の質問があった。一昨年、昨年に比べ、総合案内で答えられるような一般的質問は11%→5%→1.4%と減り、専門的質問がほとんどになった。中でも、生きものに関する質問が46%と昨年と同様約半分を占め、水族に関するものは26%を占めている。

なお、当日の担当学芸職員は午後2時から約30分間、それぞれの担当の展示場所に立ち、展示の内容や展示品そのものについて解説する「フロアトーク」、「ガーデントーク」を実施した。ただし、土、日、祝日は展示室の混雑が予想されるので実施していない。

昨年度から、図書室入口の壁に担当学芸職員の2ヶ月先までの予定表を設置した。これはあらかじめ担当学芸員の専門分野と氏名を示すことにより、尋ねたい質問の専門分野担当者がいる日に来てもらえるように配慮したものである。外部からの希望もあり、この予定表はホームページにも掲載している。また昨年度から館長自らも、学芸職員に混じって、月1回、質問コーナー、フロアトークを担当しており、来館者に大変好評であった。



質問コーナー



フロアトーク

質問コーナーでの質問データ集計表

期 間	1998年4月1日～1999年3月31日（297日間）				
総質問数	801件（2.69件/日）				
質問内容	一般的な質問（総合案内で回答できるようなもの）			11件	
	専門的な質問			790件	
対 応	担当学芸職員が対応			683件	
	専門学芸職員(または外部)に依頼			118件	
専門的な質問の内容の内訳					
生 物	動 物	魚 類 その他の水生動物	169件 64件	プランクトン 動物一般	21件 74件
	植 物	陸上植物 水生植物			27件 10件
地 学		56件	図 書		53件
物 理		0件	琵琶湖		38件
歴 民		40件	環 境		33件
博 物 館		103件	その他の質問		102件

(3) 教職員等研修会

平成10年度に行われた教職員等研修は、合計45件（参加者総数2,138人）であった。こうした研修会では、学芸職員が展示概要や設置意図の説明のみならず、教育機関がどのように博物館を活用できるかについても解説を行った。また、展示内容に関わる実験実習も行った。

No.	月 日	研修会の内容	参加者数
1	4月 7日	草津市職員研修所新規採用職員研修	100
2	4月 8日	京都橘女子大学学外見学会	240
3	4月24日	ノートルダム女学院講演見学研修	140
4	4月25日	長岡京市教育委員会視察研修	36
5	4月29日	草津市水体験学習会	75
6	5月26日	近畿府県教育委員会指導事務主管部課長研修	22
7	6月25日	教育センター理科教育講座	30
8	7月 2日	全国市立保育園研究大会	150
9	7月 3日	アメリカ合衆国ミシガン州高校生研修	25
10	7月 9日	教育センター事務主査研修	20
11	7月14日	国際青年育成交流事業視察	43
12	7月24日	近畿高校教育研究協議会見学	116
13	7月24日	大阪府町村教育委員会教育委員視察	55
14	7月25日	淡海生涯カレッジ講座	15
15	7月31日	淡海生涯カレッジ講座	15
16	7月31日	奈良県磯城郡田原本中学校理科部会研修	4
17	7月31日	大津市仰木の里公民館淡海生涯カレッジ	25
18	7月31日	教育旅行GL研修会	30
19	8月 4日	長野県下伊那郡阿智村教育委員会視察	7
20	8月12日	海外技術研修員、留学生、交流研修員の見学	28
21	8月19日	守山市物部小学校校内研修	20
22	8月22日	草津チャレンジクラブ事業	40
23	8月26日	石川県門前町公民館研修	16
24	9月 6日	立命館大学国際平和ミュージアム職員研修	10
25	9月29日	大瀧村職員研修	7
26	10月 8日	教育センター教職経験者研修	70
27	10月 9日	教育センター教職経験者研修	70
28	10月13日	教育センター教職経験者研修	70
29	10月15日	岡山県総社市教育委員会文化財専門委員視察	8
30	10月20日	三重県教育委員会事務局生涯学習課施設見学	15
31	10月27日	教育センター教職経験者研修	70
32	11月 5日	鳥取市教育委員会教育委員行政視察	13
33	11月 8日	木之本町青少年体験学習会	30
34	11月10日	近畿地区私学教育研修会環境部会研修	50
35	11月19日	滋賀県教育課題特別研修会研修	230
36	11月20日	岐阜県立高等学校岐阜地区教頭会研修視察	7
37	11月26日	坂田郡中学校教育研究会理科部会研修	7

38	12月4日	西濃地区社会教育委員連絡協議会研修視察	21
39	12月6日	近畿地区こども会育成指導者協議会施設見学	130
40	1月19日	県立学校湖西地区初任者研修	16
41	3月4日	甲賀町教育委員会研修	18
42	3月10日	近畿府県教育委員会同和教育指導主事研修	23
43	3月16日	福岡県総務部国立博物館対策室職員研修	4
44	3月25日	石川県金沢泉丘高等学校教員研修	11
45	3月31日	名古屋市総合教育センター研修	6
合 計			45件
			2,138

(4) 博物館実習（期間：平成10年8月3日(月)～8月10日(月)）

国内11大学生26名を対象に、博物館の展示や情報、資料の整理・保管、ならびに交流員体験等の講義・実習を行った。なお、最終日にはディスカバリーボックスの企画とその成果発表会を開催するとともに、受講者に修了証を発行した。実習の日程・内容、ならびに参加者内訳は下表に示したとおりである。

a) 実習の日程と内容

月日(曜日)	実習内容(午前)	実習内容(午後)
8月3日(月)	<ul style="list-style-type: none"> 全体オリエンテーション 博物館とは何か？ 	<ul style="list-style-type: none"> 琵琶湖博物館の設置理念と概要 館内見学
8月4日(火)	<ul style="list-style-type: none"> 展示の概略 ディスカバリールーム見学 ディスカバリーボックスのガイダンス 	<ul style="list-style-type: none"> A・B・C・水族展示室の見学
8月5日(水)	<ul style="list-style-type: none"> 接客研修 展示交流員体験 	<ul style="list-style-type: none"> 展示交流員体験
8月6日(木)	<ul style="list-style-type: none"> 収蔵庫見学 生物標本整理 水族バックヤード見学 	<ul style="list-style-type: none"> 地学標本整理 民俗資料整理
8月7日(金)	<ul style="list-style-type: none"> 交流センター概要説明 交流業務裏方体験 	<ul style="list-style-type: none"> 情報センター概要説明 映像資料保存処理実習 図書資料整理実習
8月8日(土)	<ul style="list-style-type: none"> 来館者反応調査実習 	<ul style="list-style-type: none"> 調査結果のまとめ 発表
8月9日(日)	休	
8月10日(月)	<ul style="list-style-type: none"> 実習成果発表準備 	<ul style="list-style-type: none"> 実習成果発表会 終了式

所 属	人 数	所 属	人 数
滋賀県立大学	5	金 沢 大 学	1
成安造形大学	5	筑 波 大 学	1
京都教育大学	4	法 政 大 学	1
京都府立大学	1	東 北 学 院 大 学	1
京都橘女子大学	5	宮 崎 大 学	1
大阪芸術大学	1	合 計	26

(5) 博物館体験学習

博物館と学校とが連携を保ちながら活動を進めていくことができるよう、学校のカリキュラムに沿った社会見学への対応のほか、フローティングスクールや校外学習の受入を行った。特に、体験学習として下記のような活動を実習室、セミナー室、生活実験工房等を利用して行った。



水鳥に親しもう（博物館体験学習）

校 種	主 な 活 動 内 容
小 学 校	ヨシ笛、化石のレプリカ、水質検査、ワークシート、昔の暮らし体験、ワラ細工、魚のレプリカ、魚の解剖
中 学 校	水質検査、プランクトン観察、化石のレプリカ、魚の解剖、ワークシート
高等学校	土壌の吸着実験、水質検査、プランクトン観察、魚・貝の解剖、ワークシート

校 種	活動学校数	活 動 人 数
小 学 校	52 校	3,521 人
中 学 校	7 校	1,210 人
高 等 学 校	12 校	607 人
合 計	71 校	5,338 人

(6) 「びわ湖・ミュージアムスクール」モデル事業

このモデル事業は、学校のカリキュラムと連携を保ちながら琵琶湖博物館のテーマである「湖と人間」を考える総合的な環境学習をめざしている。積極的な博物館利用をめざして、博物館を体験的な学習の場として提供し、児童生徒の探求活動を支援することを目的として、体験学習を組み込んだ学習プログラムを学校に提供しようとするものである。この「びわ湖・ミュージアムスクール」は、従来の半日～1日の校外学習を一層発展させ、事前学習～博物館体験学習～事後学習（この間少なくとも1ヶ月から3ヶ月）という一貫した流れの中で、博物館のテーマに沿って体験学習するものである。特に児童・生徒は博物館でテーマ探しを行うことを出発点として学校での学習の他に地域に出かけて活動する。その後、一連の学習をまとめて発表会を開き、活動に関わりをもった学芸職員が講評するものである。活動の結果より活動プロセスを重視し、学芸職員と学校の教師の間で交流が深まるように企画した。モデル校として、草津市立常磐小学校・大津市立真野中学校・滋賀県立石部高等学校の3校で実施した。



ミュージアムスクール（常磐小学校）



ミュージアムスクール（真野中学校）



ミュージアムスクール（石部高校）

・小学校の部（草津市立常磐小学校 5年 60人）

5年生の理科学習に位置づけて魚の調査のプログラムを実施した。児童の探求活動は、「魚のうろこを調べよう」「鮎の歯を調べよう」「魚のひれを調べよう」など8つのテーマにわかれて児童の発想を生かした活動ができた。

・中学校の部（大津市立真野中学校 1年 245人）

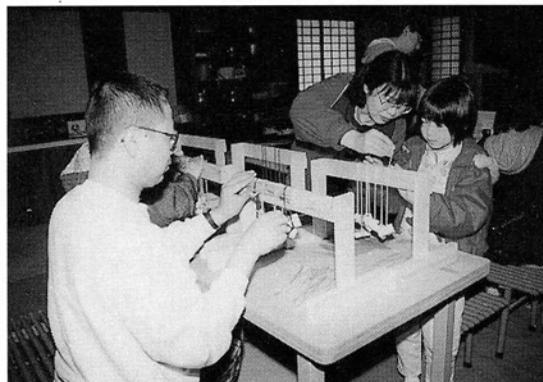
1年生の理科・社会科・特別活動に位置づけて校外学習型を発展させて、「身近な水を調べてみませんか」「琵琶湖の魚や漁業について調べてみませんか」「川と水害について調べてみませんか」など9つのテーマを設定した。

・高等学校の部（県立石部高等学校 3年 13人）

理科のその他科目・「琵琶湖と環境」の「琵琶湖探求」という科目に位置づけ夏休みに延べ5日間の実習を設定した。「プランクトンの分類」「魚・貝の解剖」「船を利用した琵琶湖の調査」など6つのテーマを設定した。

(7) 体験学習プログラムの開発

効果的な展示見学を行うためのワークシートの作成、理科・社会科等の教科学習を支援するプログラムを開発した。



わら細工に親しもう (体験学習)



びわ湖のプランクトンをみよう (体験学習)

(8) 「体験学習の日」の活動

学校週5日制に対応する事業として、毎月第2・4週の土曜日に当館を訪れる小・中学生を対象に自然・環境・歴史・民俗への興味や関心を高めるための活動を行った。午前10:30～11:30、午後2:00～3:00の2回実施し、合計1,106名の参加者があった。

回	月 日	体験学習の内容	講 師	参加人数
1	4月11日	春を感じてみよう	水谷・大谷	53
2	25日			72
3	5月9日	びわ湖のプランクトンを見よう ヨシ紙をつくろう	浅井	45
4	23日			47
5	7月11日	標本をつくろう	江島・高橋・小関 八尋・杉野・矢野	73
6	25日			81
7	9月12日	鉱物に親しもう	磯部・北岸	57
8	26日			71
9	10月10日	草木染めで楽しもう	布谷・江島・高橋	44
10	24日			78
11	11月14日	木の実で遊ぼう	高橋・江島	46
12	28日			46
13	12月12日	鏡餅をつくろう	勝島・水上	86
14	1月9日	水鳥に親しもう	亀田・吉村	47
15	23日			42
16	2月13日	薬細工を楽しもう	勝島・水上・小関	43
17	27日			30

18	3月13日	ヨシ笛をつくろう	水上・高橋・江島	60
19	27日			85
参加人数合計				1,106

(9) 博物館入門セミナー、博物館講座、専門講座

入門セミナーは、琵琶湖博物館の展示や活動の内容について、実際の展示を創ってきた学芸職員が解説をし、参加者に博物館により親しんでもらうためのものであり、水曜コースと土曜コースが選択できる。また、将来博物館の活動に何らかの形で関わって行きたいという方にも、“博物館で何ができるか、何をしたいか”を考えてもらうという狙いもある。平成10年度には、前年度に引き続いて「湖をめぐる自然と人間」をテーマに第6期、第7期入門セミナーを開催した。

博物館講座は、学芸職員が専門テーマについて分かりやすく解説するものである。専門講座は、ある特定の分野について専門的知識や技術を身につけたい方のための講座であり、教員やアマチュアの研究者を対象としたものである。その詳細は下表に示した。

第6期 入門セミナー

テ ー マ	水曜コース 登録者7名	土曜コース 登録者6名	担 当 者
暮らしと博物館	4月15日	4月18日	嘉田由紀子（環境社会学）
湖と大地の歴史	5月13日	5月9日	中島 経夫（古生物学）
人と湖の歴史	5月20日	5月16日	牧野 久実（民族学）・用田 政晴（考古学）
湖と農村	6月3日	6月6日	水上二己夫（農業工学）
湖と生物	6月17日	6月20日	中井 克樹（動物生態学）
希少淡水魚と博物館	7月1日	7月4日	松田 征也（淡水魚類学）
博物館で学ぶ	7月15日	7月18日	布谷 知夫（森林生態学）

第7期 入門セミナー

テ ー マ	水曜コース 登録者10名	土曜コース 登録者9名	担 当 者
暮らしと博物館	10月28日	10月31日	嘉田由紀子（環境社会学）
湖と大地の歴史	11月11日	11月14日	木田千代美（古植物学）
湖と人の歴史	11月25日	11月28日	小笠原俊明（河川工学）
湖と魚	12月9日	12月12日	前畑 政善（魚類生態学）
湖と自然	12月16日	12月19日	江島 穰（理科教育学）
湖と森	1月13日	1月16日	草加 伸吾（森林生態学）
博物館で学ぶ	1月27日	1月30日	芦谷美奈子（水生植物学）

博物館講座 「淡水魚入門講座(講義編;全6回)」

登録者18名

回	開催日	内 容	担 当 者
1	5月10日(日)	淡水魚とはなにか?	前畑
2	5月17日(日)	琵琶湖の魚と環境	桑原
3	5月24日(日)	琵琶湖の魚と漁業	桑村
4	5月31日(日)	日本産淡水魚の現状と保全	松田
5	6月7日(日)	琵琶湖に侵入した外来魚	中井
6	6月14日(日)	チョウザメの世界	A. Rossiter

博物館講座 「淡水魚入門講座(実習編;全3回)」

登録者15名

回	開催日	内 容	担 当 者
1	9月13日(日)	魚類の調査法	桑原・前畑
2	9月20日(日)	魚類の採集調査	桑原・前畑
3	9月27日(日)	魚写真の撮り方	秋山

博物館講座 「鳥類学入門講座(烏丸半島周辺の鳥類;全3回)」

登録者21名

回	開催日	内 容	担 当 者
1	1月17日(日)	鳥類生態学入門	亀田
2	1月24日(日)	琵琶湖の鳥類とラムサール条約	
3	1月31日(日)	琵琶湖博物館の鳥類研究	

博物館講座 「咽頭歯から地球の歴史を探る;全2回)」

登録者7名

回	開催日	内 容	担 当 者
1	2月6日(土)	咽頭歯から地球の歴史を探る(前編)	中島
2	13日(土)	咽頭歯から地球の歴史を探る(後編)	

博物館専門講座 「淡水生物学講座「水生昆虫入門」」

登録者21名

回	開催日	内 容	担 当 者
1	3月25日(木)	水生昆虫の採集(実技)	内田
2	3月26日(金)	水生昆虫の同定(実技)	
3	3月27日(土)	水生昆虫の同定(実技)	

(10) 田んぼ体験教室

屋外展示のひとつである田んぼを使った体験教室を開催した。この教室は単なる稲作体験にとどまらず、田んぼのまわりに広がる自然や人の暮らしまで学ぶものである。

年間を通して10回開催した。



田んぼ体験教室「田植え」

たんぼ体験教室開催日および内容 平成10年度参加者 40名

回	開催日	内容
1	5月10, 17日	全体説明・田植え
2	6月21, 28日	周辺観察・田の草取り
3	7月12日	周辺観察・お米の話
4	8月9日	周辺観察・虫の話
5	9月13日	周辺観察・かかしづくり
6	10月4日	稲刈り
7	11月1日	脱穀
8	12月20日	餅つき
9	1月17日	わら細工
10	2月21日	まとめ



田んぼ体験教室「かかしづくり」

(11) 水族展示交流活動

1998年7月から水族館展示・トンネル水槽において潜水者（飼育係員）と展示交流員による展示交流を開始した。（実施日：1998年7月25日、10月17日、10月31日、11月21日、12月5日の計5回）。また、水族飼育係員による、古代魚水槽での説明を開始した（実施日：1999年2月23日・3月10日）。そのほか、水族展示を巡りながら、魚に関するクイズに答える「水族展示探検クイズ」と、滋賀県内の淡水魚を各月一種類ごとを紹介する「今月の魚」（A4サイズ両面刷り）の配布を行った。

(12) フィールドレポーター

フィールドレポーターとは県内を中心に、身近な生き物や生活に関する情報を定期的に報告してもらい、得られた情報を博物館の資料として保存し、展示や交流の中で活かしていくという制度である。この制度は平成9年度からスタートし、平成10年度は143名の登録者があった。

活動として、博物館からテーマを提示して報告する年4回のアンケート調査と、自由な内容で身近な情報を随時報告する自由回答調査の2種類を実施した。レポーターからの情報は、「フィールドレポーター便り」と年3回の「フィールドレポーター交流会」においてとりまとめ、結果の報告を行った。また、レポーターの中から可能な人には、情報のとりまとめ、活動の企画、交流会の開催などに参加してもらった。



フィールドレポーター交流会



調査・活動実績

調査内容	実施月	報告数(件)
タンポポ調査	5～8	358
ホタル調査	7～8	58
案山子調査	8～2	205
お雑煮調査	10～11	135
自由型調査	周年	52
活動内容	実施月	回数
フィールドレポーター便りの発行	8, 12, 3月	3
フィールドレポーター交流会	8, 12, 3月	3

(13) 夏休み相談室

夏休み期間中の自由研究の相談と持ち込み標本や資料の同定会を行った。62件の相談が寄せられた。

・期日：前編 8月8日(土)・9日(日)

後編 8月22日(土)・23日(日)

・場所：博物館セミナー室

夏休み相談室相談分野別件数

	植 物	キノコ	両生・爬虫	魚	貝	昆 虫	プランクトン	岩 石	化 石	地学一般	環 境	物 理	その他	合 計
8月8日				1		2	1	1	1		2			8
8月9日	1			2	6	1		1	1				1	13
8月22日	2	1	2	1	3	5	1		1		1	1	1	19
8月23日		1	1	6	3	4		1	5	1				22
合 計	3	2	3	10	12	12	2	3	8	1	3	1	2	62

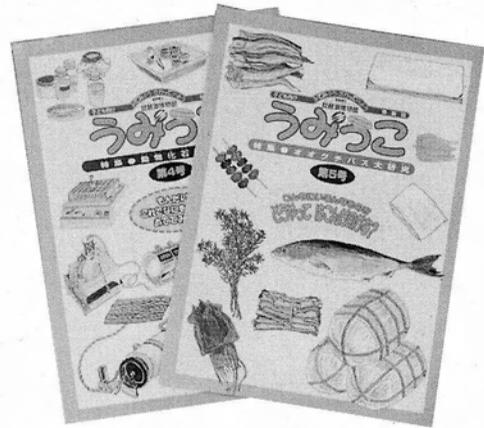


夏 休 み 相 談 室

(14) (仮称)博物館ボランティア制度の検討

「地域博物館」は近年の生涯学習・教育の高まりや知的好奇心の高揚によって、地域活動のひとつの活動拠点として注目されている。その中で、琵琶湖博物館は「湖と人間」を対象とした「テーマ博物館」であり、「フィールドへの誘いとなる博物館」、そして「交流の場としての博物館」を基本理念に掲げている。

基本理念の一つである「交流の場としての博物館」として琵琶湖博物館を運営するうえで、自発的・主体的に参加する個人を対象とした博物館活動に積極的に参加・協力する組織・制度が必要であり、(仮称)琵琶湖博物館ボランティア制度検討委員会で検討を重ねた。



(15) 交流関連の印刷物

本年度は、交流関連印刷物として琵琶湖博物館学習プログラム集、博物館便り（うみんど：大人用、うみっこ：子ども用）等を発行した。

印刷物名	号数	頁	発行部数
琵琶湖博物館学習プログラム集		122	3,000
うみんど	7	8	60,000
	8	8	60,000
	9	8	60,000
	10	8	60,000
うみっこ	4	4	80,000
	5	4	80,000
もよおしもの案内（上半期）ポスター チラシ		1	500
		2	40,000
もよおしもの案内（下半期）ポスター チラシ		1	500
		2	40,000

3 情報活動

最新のハードウェアとソフトウェアを活用し、“博情報館”として機能できる基本情報システムの構築を目指している。そのため、来館者向け閲覧図書の整備や映像情報のデジタル化ならびに研究支援を図りながら、地図情報や文字情報と合わせて、検索や利用を可能にするとともに、通信網を通じて博物館利用者や類似施設とのネットワーク化を図ることに努めた。

(1) 館内の情報センター（図書情報利用室）

館内の図書室と情報利用室を来館者が自由に利用できるように整備している。来館者の立場からすれば、文献資料・電子資料とも疑問解決のための「調べごと」の手段という意味では同じであるという考えに基づき、両室を隣接させて互いに往来できるように配置し、かつ利用案内カウンター（質問コーナー）を共通にすることによって、一体化して運営している。

・図書室

単行本約5,500冊および雑誌約50タイトルを開架式で提供し、要望に応じて閉架式資料も提供した。

・情報利用室

情報端末を利用者自身が操作することにより、常設展示室のマルチメディア資料のほか情報利用室専用の長時間番組や博物館資料の検索プログラムが利用できるようにしている。

なお、今年度のシステム改良事業として、旧システムでは展示室案内と資料利用とがまったく独立していたものを、展示室案内画面からマルチメディア資料を直接呼び出せるように変更し、あわせて展示室等の施設を案内するメニューの充実を図った。

(2) 通信網を利用した館外サービス

・ファックス情報提供サービス

各家庭のファックスから電話回線で接続して操作することにより、展示案内、行事案内、交通案内などの情報を受信することができる。1998(平成10)年5月より利用記録が残るようなシステムの運用を始めた。利用状況は以下のとおりであった。

ファックス情報提供サービスへのアクセス件数

月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
総アクセス数	82	108	115	199	143	114	88	52	77	50	115
目次アクセス数	13	38	50	90	58	40	36	15	40	20	23

・総アクセス数：サーバから情報が取り出された件数

・目次アクセス数：「総アクセス数」のうち、目次ページへのアクセス件数（通常、目次ページで目的とする情報の所在を確認した後、改めてサーバに接続してその情報を取り出す）

・電子交流ネットワークシステム（LBMNET）

前年度までに整備したシステムは、博物館が一方的に情報提供をするという性格の強いものである。博物館内部の職員が利用してきたパソコン通信の技術を利用した電子掲示板システムに一般公開用の部分を新設し、1998（平成10）年10月13日より一般公開した。年度内に30名の利用申し込みを受け付けた。来年度中を目標に、インターネットからこの掲示板にアクセスできるシステムの運用を計画している。

・インターネットページ（ホームページ）

インターネットを経由して博物館に接続することにより、展示案内、行事案内、交通案内などの情報を受信できる。また、現在博物館資料の検索を行えるよう準備を進めている。

さらに、インターネット・メールで専門的な内容についての質問を受け付けており、このメールの宛先もホームページで案内している。1998（平成10）年度の利用状況は以下のとおりであった。

インターネットページへのアクセス件数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
総ヒット数	28,965	40,525	35,919	40,751	45,980	38,516	53,121	64,388	50,228	68,097	62,322	77,833
連続アクセス	1,888	2,451	2,361	2,360	2,807	2,592	2,495	2,518	2,270	2,823	2,780	3,838
表紙アクセス	443	615	539	629	694	600	601	439	340	451	438	565

- ・総ヒット数：サーバに対するすべての種類のデータ要求の総数（ただし、博物館内部からの要求は除外）。各ページの定義ファイルはもちろん、ページを構成する画像ファイルの要求も含まれる。
 - ・連続アクセス：同一利用者が概ね1時間以内に再度アクセスしたと思われるものは、合わせて1件と数えた場合のアクセス件数（博物館内部からのアクセスは除外）
 - ・表紙アクセス：「連続アクセス」のうち、ウエルカムページ（表紙ページ）を経由したアクセス件数
- ※「エリアキャッシュ」を利用して利用者側の組織内で情報を再使用している場合は、合わせて1件としか計数されていない。

[インターネットページで案内している宛先へのメール受け付け状況]

全部で89通のメール（以前のメールに対する回答などを除く）があり、うち29通は特に回答を要しない感想等であった。残り60通については、情報センター担当者またはメール内容に応じた学芸職員が回答した。回答は原則として電子メールによったが、内容に応じて電話連絡によったり、資料送付をもって回答に替えたりしたものもある。メールの内容は以下のようなものであった。

No.	内 容	件 数
1	ページ内容についての意見・感想	7
2	ページ運営状況についての問い合わせ・アンケート	4
3	リンク許可依頼・設置報告	16
4	情報掲載許可依頼	4
5	展示内容についての意見・感想	9
6	施設・行事・来館方法についての問い合わせ	6
7	パンフレット送付依頼	2
8	専門的内容についての問い合わせ	24

9	視察受入依頼・運営状況問い合わせ	2
10	県下の他の博物館等の施設に関する問い合わせ	2
11	博物館実習に関する問い合わせ	3
12	特定の博物館スタッフへのあいさつ	8
13	自作音楽を館内で使って欲しいとの申し出	1
14	イベント案内情報告知	1
	合 計	89

(3) 資料整備

以上のような活動の前提となる資料収集のうち、情報活動との関連が特に密接な図書文献資料及び映像資料について、以下のとおり整備した。

ア. 図書文献資料

(ア) 図 書

(単位：冊)

区 分	平成9年度までの合計	平成10年度実績	合 計
購 入 図 書	14,327	1,965	16,292
寄 贈 図 書	1,804	2,415	4,219
データ入力済図書	18,175	4,284	22,459
データ入力済文献	19,452	2,214	21,666

(イ) 雑 誌

(単位：件)

区 分	タイトル数	合 計
和 雑 誌	845	1,247
洋 雑 誌	365	
中 国 雑 誌	37	

イ. 映像資料

(単位：点)

区 分	平成7年度末	平成8年度	平成9年度	平成10年度	合 計
動 画 資 料	350	48	21	13	432
静 止 画 資 料	56,654	3,000	2,500	1,273	63,427
(合 計)	57,004	3,048	2,521	1,286	63,859
C D 入 力 点 数	49,558	7,904	3,407	2,194	63,063

ウ 映像資料の貸し出し

静止画資料の整備に伴い館外からの利用要求に応え、静止画の貸し出し業務を開始した。平成10年4月1日～平成11年3月31日までの利用状況は、42件で内訳は以下の通りである。

年月日	貸し出し先	資料数	年月日	貸し出し先	資料数
H10					
4.18	建設省 中部地方建設局 庄内川工事事務所	魚類写真1点	11.3	中央公論社	魚類写真1点
27	滋賀県琵琶湖環境部自然保護課	魚類写真転載67点、焼き付け貸出4点	13	草津市立教育研究所	魚類写真54点、貝類写真44点、甲殻類写真4点、鳥類写真32点
5.14	(有)なずな出版	魚類写真1点、漁労写真2点	12.4	古高町自治会	寄託資料(藤村コレクション)26点
14	月刊アングラークリーク	魚類写真4点	8	産経新聞大津支局	魚類写真6点
30	(有)なずな出版	寄託資料(前野コレクション)1点、デジタルデータ貸出	13	環境と食の研究会	魚類写真1点
			26	滋賀県立琵琶湖研究所	水生生物写真1点
6.7	沖島小学校	魚類写真15点、デジタル対応	H11		
12	(株)世界通信社	魚類写真など10点	1.20	琵琶湖淀川水質保全機構	魚類写真2点、デジタル対応
12	大津紙業	魚類・水生生物写真5点	2.4	自然保護課	魚類写真11点
7.2	大津市歴博	寄託資料(前野コレクション)3点	14	農村整備課	魚類写真1点、両生類写真2点、デジタル対応
2	新興出版社啓林館	魚類写真1点			
2	(株)日本技術開発	魚類写真1点	24	播磨田町史	複写資料(藤村コレクション)13点
6	滋賀県土木部河港課	前野コレクション6点、パネル貸出	3.10	多賀の自然と文化の館	両生類写真1点
13	(財)国際湖沼環境委員会 (ILEC) 支援研修課	湖沼写真1点	23	(株)エイエムエス	魚類写真7点
20	毎日新聞大津支局	魚類写真1点	23	草津県事務所土地改良課	寄託資料(前野コレクション)4点
24	(株)山川出版	建築物写真2点	23	(財)自然環境研究センター	魚類・水生生物写真8点、デジタル対応
8.6	(株)テラソフト	魚類写真11点	24	草津県事務所土地改良課	魚類写真2点、デジタル対応
26	保津川を生かす会	魚類写真4点			
26	読売新聞大阪本社	魚類写真1点			
9.2	(有)アーバンクボタ	魚類写真2点			
14	産経新聞大津支局	魚類写真8点			
7	滋賀県教育研究会 理科部会	哺乳類化石写真3点			
14	滋賀県中学校教育研究会 理科部会	魚類・水生生物写真4点			
3	びわ湖会議	寄託資料(前野コレクション)4点			
26	多賀の自然と文化の館	両生類写真1点			
10.5	滋賀県土木河港課	寄託資料(前野コレクション)2点			
16	多賀の自然と文化の館	図版写真1点			
16	(財)河川環境管理財団	寄託資料(前野コレクション)1点			(日付は、使用承認書発行日)

(4) 情報システムの構築

準備室時代の平成4年度から年次進行でシステム整備を進め、平成8年度の第5期計画で一応の完成をみた。平成10年度は、前年度に引き続きこのシステムに対して、以下のような追加整備を行った。

《リース切れ機器の更新》

平成6年度の第3期整備事業で導入した備品（4年リース）が、リース期限を満了したことに伴い、以下の機器を新規購入した。

・文字情報サーバ	DELL Power Edge 4300	1台
・インテリジェントハブ	CONTEC RT-1224S	1台
・画像情報検索端末	PC-98NX MA26D/S7	1台
・画像情報入力端末	Power Macintosh G3MT300	1台
・画像情報プリンタ	OKI Micro Line 905PS	1台
・画像情報プリンタ	OKI Micro Line 700N	1台
・情報利用サーバシステム自動停止制御装置		1セット

《ソフトウェアの追加開発》

情報システムで運用しているソフトウェアについて、実際に開館して運用を進めていく中で明らかになってきた不十分な面に対応するため、下記の内容でソフトウェアシステムの追加開発を行った。

- ・データベース公開システム基本エンジン
- ・図書データベース公開システム
- ・魚類 "
- ・気象 "
- ・インターネットページの増強
- ・地学データベースの再構築

4 資料整備活動

琵琶湖博物館では、「琵琶湖とその集水域および淀川流域」およびその全体的評価にかかわるもの、ならびに博物館のテーマ「湖と人間」に関係する日本、アジア、世界の湖沼とその周辺地域におよぶ自然、人文、社会科学等にかかる過去から現在までの実物の資料、生魚などの水族資料、映像資料、図書資料および博物館業務に必要な資料の収集整理保管、および利用をはかり、博物館活動の充実につとめている。

収集は、博物館職員による収集、受贈、受託、交換、購入、製作、提供、参加型調査等によって行い、これらを必要な時にただちに利用できるよう、各資料区分ごとの体系に従って整理し、長期間にわたり安全に良好な状態を保てるよう保管している。

またその資料は、保存に影響を与えない範囲で、展示、閲覧および貸出等に利用している。ここでは映像資料、図書資料を除いた資料について掲げておく。

(1) 収蔵資料点数

・地学標本	14,000点
岩 石	1,600点
化 石	10,500点
ボーリング資料	1,250点
・植物標本	71,000点
陸生植物	69,000点
水生植物	2,000点
・動物標本（液浸標本を除く）	54,000点
貝 類	9,000点
昆 虫 類	44,600点
脊椎動物	84点
鳥 類	72点
・液浸標本	54,300本
微 生 物	200本
貝 類	4,100本
昆 虫 等	19,000本
魚 類	31,000本
・考古資料	2,000点
・歴史資料	140件
・民俗資料	7,400点
滋賀県内有形民俗文化財資料	6,514点
小牧家提供民具	700点

提供漁具等	214点
・環境資料	12,000点
環境教育の成果品等	2,000点
環境に関するアンケート等	10,000点
・水族資料	224種 30,000尾
合計	約222,000点

(2) 新規資料収集

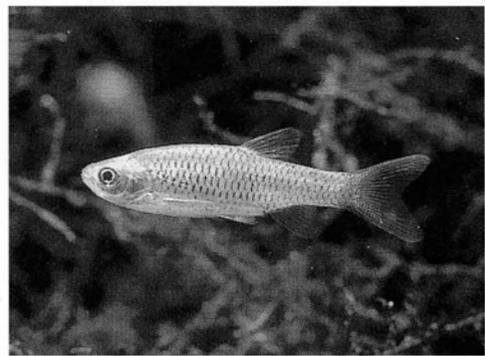
・提供	
活魚運搬木箱ほか	11点
ハシナガトゲニナ (トゲカワニナ科)	1点
カジほか	8点
絵葉書ほか	4組
・受贈	
トンボ類幼虫標本	30点
甲虫標本	50点
トンボ類成虫標本	6,804点
・購入	
歴史資料	4件
・製作	
琵琶湖木造船模型	5点

平成10年度主な繁殖魚類

日本産	学名	(尾)
コイ科		
ミヤコタナゴ	<i>Tanakia tanago</i>	67
ゼニタナゴ	<i>Acheilognathus typus</i>	72
シロヒレタビラ	<i>Acheilognathus tabira tabira</i>	28
イタセンパラ	<i>Acheilognathus longipinnis</i>	45
スイゲンゼニタナゴ	<i>Rhodeus sinensis suigensis</i>	108
カゼトゲタナゴ	<i>Rhodeus sinensis atremius</i>	65
ニッポンバラタナゴ	<i>Rhodeus ocellatus kurmeus</i>	219
カワバタモロコ	<i>Aphyocypris rasborella</i>	152
ヒナモロコ	<i>Aphyocypris chinensis</i>	227
シナイモツゴ	<i>Pseudorasbora pumira pumira</i>	330
ウシモツゴ	<i>Pseudorasbora pumira</i> subsp.	469
ホンモロコ	<i>Gnathopogon caerulescens</i>	47
ドジョウ科		
アユモドキ	<i>Leptobotia curta</i>	594
トゲウオ科		
ハリヨ	<i>Gasterosteus aculeatus leiurus</i>	311
ムサシトミヨ	<i>Pungitius pungitius</i> subsp.	44
ハゼ科		
アオバラヨシノボリ	<i>Rhinogobius</i> sp. BB	65
外国産		
コイ科		
カラヒガイ	<i>Sarcocheilichthys sinensis sinensis</i>	239
コウライハス	<i>Opsariichthys bidens</i>	594
トンキントゲタナゴ	<i>Acheilognathus tonkinensis</i>	34
ウエキゼニタナゴ	<i>Rhodeus uyekii</i>	25
ノーザンファットヘッドミンノー	<i>Pimephales promelas promelas</i>	1195
サンフィッシュ科		
ロングイヤーサンフィッシュ	<i>Lepomis megalotis peltastes</i>	522



イタセンパラ



ヒナモロコ

(3) 資料整理

資料の整理は、データの添付、標本製作、保存処理、修復、補修、同定・鑑定、収納、登録、燻蒸、損害保険等の手続きを含む。これらの詳細は、各資料の区分ごとに方針、要領によって定められ実施した。

整理資料

・地学標本

地学標本 約12,000点 新データベース登録
約100点 分類収納

・植物標本

桑島氏植物標本 約6,000点 マウント、ラベル添付、燻蒸
村瀬氏植物標本 約11,200点 マウント、ラベル添付、燻蒸

・動物標本

滋賀県産甲虫標本 約5,000点 展足、ラベル添付、燻蒸、収納
日本産チョウ・ガ類昆虫標本 約500点 展翅、ラベル添付、燻蒸、収納
トンボ標本 2,000点 展翅、ラベル添付、燻蒸、収納
脊椎動物標本 約180本 燻蒸、収納

・液浸標本

近畿産水生昆虫液浸標本 約500本 小分け、ラベル添付、粗同定、収納
甲虫類標本 358本 保存液交換 同標本 258本 同定
水生昆虫液浸標本 約18,000本 アルコール液点検・補充、収納
同標本 約7,000点 ラベル追加添付
魚類標本 約4,000本 保存液交換

・民俗資料

民具資料 約7,400点 一部登録番号照会、一部写真撮影

(4) 燻 蒸

資料に付着する成虫・卵・蛹および黴等、資料保存のために有害な生物の殺虫防除を目的に、収蔵庫燻蒸、展示室燻蒸および燻蒸庫燻蒸を行った。収蔵庫のガス燻蒸は平成10年9月7日から9日まで、植物、動物、民俗、環境の各収蔵庫について実施した。燻蒸庫における新規搬入資料のガス燻蒸は、4回実施した。

(5) 保存環境調査

博物館として資料に良好な保存環境を作り上げてこれを維持するため、平成4年度から文化庁および東京国立文化財研究所の指導と助言を受けて、各種の検討と調査、測定を行っている。

特に文化財に影響を及ぼすと考えられる温湿度、酸やアルカリによる空気汚染、照明、生物被害について行って来た。

測定指示薬含浸濾紙法による環境調査を月に1回、特別収蔵庫、一時保管庫、映像収蔵庫、写場を中心に行い、それらの結果をもとに東京国立文化財研究所の指導を受けた。

また、シグマII型温湿度記録計による32日間連続測定を年間を通して継続して行った。

(6) 収蔵資料の貸し出し

貸出先	期間	貸し出し資料
若葉小学校	10月13日～11月8日	琵琶湖写真パネル
山村昌之	2月13日～3月7日	蝶標本
荻部治	11月21日～11月21日	昆虫標本(トンボ類)
島根県八雲立つ風土記の丘資料館	9月15日～11月30日	へら状木製品(琴)他
友田淑郎	9月28日～11月30日	<i>Xenocypris argentic</i>
大沼芳幸	10月6日～11月30日	ナマリ、オトリダライ他
熊谷明生	10月7日～11月30日	オオクチバス他
R. Alekseev	9月24日～12月31日	Copepoda: Cyclopoida

(7) 資料調査研究員

琵琶湖博物館の展示、調査・研究、情報、交流・サービス事業など博物館活動に必要な資料・情報の調査、収集等の協力を求めるため、琵琶湖博物館資料調査研究員を選任し、博物館活動への協力を依頼している。

平成10年度は、歴史系5名、環境系10名、計15名に協力をお願いして、各種情報・資料の提供を受けた。

平成10年度 資料調査研究員名簿

分野	氏名	専門	所属
歴史系	土井 通弘	書跡・典籍	県立琵琶湖文化館 米原町教育委員会 草津市街道文化情報センター 県立近代美術館 滋賀県文化財保護協会
	中井 均	考古学	
	八杉 淳	文献史学	
	高梨 純次	美術史	
	中川 正人	保存科学	
環境系	遠藤 真樹	魚類	(株)コオカ
	木戸 裕子	魚類	
	小林 哲夫	昆虫類	
	柴栄 康雄	魚類	

高橋 さち子	魚 類	龍谷大学
中川 真澄	地域社会史	長浜南小学校
中川 優	魚 類	
中邨 徹	昆虫類	枚方高校
西田 謙二	植 物	石山高校
濱口 浩之	魚 類	

(8) 資料評価委員

博物館として重要な資料の購入や受贈等にあたって、博物館資料としての学術的評価と価格評価を行うため、あらかじめ選定しておいた33名からなる資料評価者名簿をもとにしながら資料評価委員を選任し、資料評価を依頼している。

平成10年度は、資料購入にあたって2件の資料評価を受けた。

(9) 資料関連の印刷物

琵琶湖博物館資料目録2号「魚類標本2」 1999年3月発行 159頁、A4版、2,000部

5 展示活動

(1) 常設展示

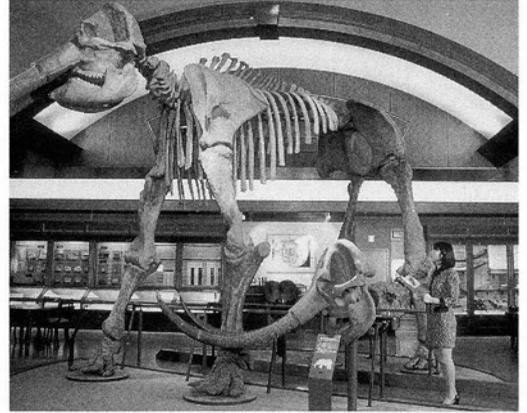
展示室の概要

・展示室A 「琵琶湖のおいたち」

2億5千万年前から現在までの滋賀の大地の歴史と、移動してきた琵琶湖の各時代ごとの様子、すんでいた生物、現在との関係等を展示。

高さ約4メートルのコウガゾウの骨格や、当時のメタセコイヤの森をジオラマで再現し、その中を歩くことができる。また、展示を作る過程を表現するために、研究室を再現して機器や化石等にふれる展示を行っている。

特に、鉱物や化石の標本をじっくりと見たい人のためには、コレクションギャラリーとして、周囲に標本を配置してテーブルを置き、カウンターでは、化石や鉱物標本の入った箱の貸出しサービスを行っている。

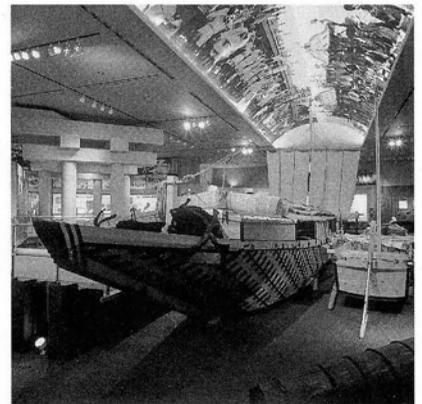


展示室A「コレクションギャラリー」

・展示室B 「人と琵琶湖の歴史」

人びとのくらしと琵琶湖とのむすびつきの深まりを見ていくために、今日まで続いている琵琶湖と人間とのかかわりの歴史を、湖底遺跡、湖上交通、漁労の様子および治水・利水への取り組みなどを通して展示している。

丸子船の展示の前では「丸子船交流デスク」を設置し、丸子船に関する情報を収集すると同時に、来館者との交流をはかっている。



展示室B「輸送の主役・丸子船」

・展示室C 「湖の環境と人びとのくらし」

昭和30年代は、人のくらしの視点から見ると、日本の歴史の中で最も急激な変化があった時代である。稲作農耕が始まって以後、長く続いてきた「自然と結びついた」けれども厳しい労働が伴った時代と、便利になった現在の暮らしとを比較している。

人の暮らしと、暮らしをとりまく自然に改めて目を向けて、自分にとってはどういう暮らしが望ましいのか、環境の多様さを理解しながら、自分が選ぶ環境を考えてみようという展示を行っている。

まず、導入部では、琵琶湖を中心とした近畿圏の1万分の1の航空写真をタイルに焼いて床全面に敷き詰めた展示で、滋賀県の土地利用や河川網を知り、琵琶湖周辺の環境を考える前提としようとしている。展示室内には、彦根市の民家を移築して昭和30年代の水利用をみたり、その暮らしを支えていた里山や田畑、ため池のジオラマを見たり、湖に生きる人達の自然の見方、琵琶湖の水の動きを展示している。「環境とは何だろう」という展示では学芸員が自分が考える環境観を展示し、

それとともに環境を考える材料を見ながら、自分はどのような環境をいい環境と思うのかを考えるためのきっかけづくりを行っている。

・展示室C 「淡水の生き物たち」(水族展示)

水族を琵琶湖の環境を考えるための一つの材料として位置づけ、C展示の一部とした世界で最大級の淡水魚の水族展示で、琵琶湖の魚を環境ごとに生態展示し、また、個々の魚の姿をじっくりと見る小さな水槽や、世界のおもな湖の淡水魚を紹介している。

・ディスカバリールーム (Discovery Room)

自然や人の暮らしに関する内容について、子どもを中心に家族で触り、体験し、考えることができる展示室。他の常設展示室で扱う専門的な内容も、ここでは解説をほとんどなくし、誰でも楽しめるように工夫されている。18の展示コーナーでは、生き物が主役の人形劇をしたり、石の下をのぞいて生き物を探したり、歯車を回したりして自然の仕組みなどを理解することができる。常にスタッフがカウンターにすわり、さまざまなテーマのディスカバリー・ボックスの貸し出しを行っている。

・屋外展示

博物館の展示と実際の野外の自然とを結ぶ場として、観察会や体験学習、実験などに活用している。ゆったりできる空間として来館者に楽しんでいただける。

1) 生活実験工房

本施設は本館内の実験・実習室ではできない紙すきや餅つきなどの体験実習を行えるような設備が整っている。室内では、なわないき縄織機や脱穀機などの農具の簡単な展示もある。また、本施設の前には小規模な田んぼ2面と畑があり、そこでは年間をとおして稲作づくりの体験教室を実施している。

2) 太古の森

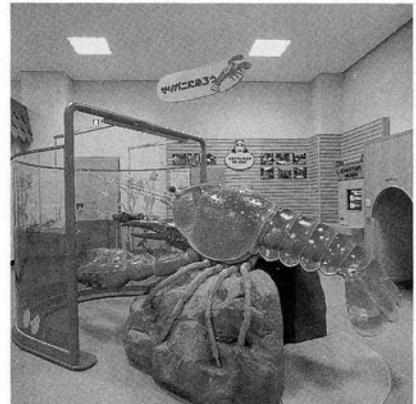
およそ180万年前に琵琶湖周辺の湿地にひろがっていたメタセコイアやヌマスギなどの落葉針葉樹とヤナギやハンノキなどがまじった林を、20～30年の時間をかけて再現しようとしている。(構成樹種：メタセコイア・スイショウ・カラムツ・トガサワラ・ツガ・フウ・サワグルミ・ハンノキ・エゴノキ・ミズキ等)



展示室C「空から見た琵琶湖」



水族展示「トンネル水槽」



ディスカバリールーム「ザリガニになろう」



屋外展示

3) 縄文弥生の森

人が自然に手を加えはじめたおよそ5~6000年前に、滋賀に広がっていた常緑広葉樹の森を再現しようとしている。いまではほとんど見られなくなったイチイガシ、湖岸近くにひろがるタブ、丘陵地のシイという三つのタイプの森の様子を見ていただくよう工夫してある。(構成樹種：イチイガシ・コジイ・スタジイ・ウラジロガシ・アラカシ・ツクバネガシ・スギ・タブ・ケヤキ・モチノキ・ヤブツバキ・エノキ・サカキ等)

4) 生態観察池

人工的に造った池を放置しておいた場合、時間を経るにしたがってどのような動植物が侵入してくるかを観察するための池である。観察会などにも使用する。

5) 田んぼ・畑

田んぼでは田植えから稲刈りまで、年間を通しての田んぼ体験教室を開催している。

6) 保護増殖センター：国内産の少なくなっている魚や水生昆虫類等合わせて10数種類の繁殖を行っている。

・展示交流員

来館者の案内役としての役割を持ち、展示をとおして来館者と交流し、積極的に来館者の興味を引き出し、その楽しさを感じてもらうように努めている。展示室内における日常の安全管理や非常時の避難誘導も重要な役割である。一定の研修を受けた委託派遣スタッフである。来館者との交流のため、毎日学芸員から研修を受けている。

・水族飼育スタッフ

水族展示のバックヤードで水槽やそれに付随するろ過槽の清掃、魚類の健康管理、ポンプや配管類などのライフラインの保守管理を行う委託派遣スタッフである。

(2) 企画展示

平成10年度には以下のとおり3つの企画展が行われた。

1) 企画展 「近江はトンボの宝庫」

会 期：平成10年7月18日(土)～9月23日(水) 53日間

料 金：大人 700円、 高校・大学生 550円、 小・中学生 350円

総観覧者数：36,961人

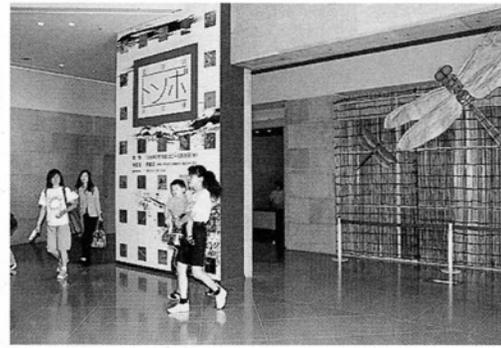
平成5～9年度に、琵琶湖博物館の委託研究および共同研究として、蜻蛉(トンボ)研究会によって、滋賀県のトンボの分布と生態が詳しく研究された。本企画展の目的は、この研究成果を一般来館者にわかりやすく紹介することであった。本展では、県内にみられるトンボの種類が全国でもめずらしい98種類にのぼることをメインテーマとしながら、その生態や棲息環境について実物をできるだけ多く取り入れながら、わかりやすく解説した。

- ・ 関連行事 「トンボをつかまよう」 期日：8月9日 16:30～18:30



企画展「近江はトンボの宝庫」展示室風景

企画展「近江はトンボの宝庫」入口付近



2) 企画展「絶滅と進化—動物化石が語る東アジア500万年」

会 期：平成11年1月15日(金)～4月11日(日) 74日間

料 金：大人 900円、 高校・大学生 700円、 小・中学生 450円

総観覧者数 31,392人

琵琶湖周辺で発見される脊椎動物化石を東アジア全体の中で位置づけ、その価値を考えるとともに、博物館で行っている「東アジアの中の琵琶湖、その成立と人間生態系に関する総合研究」の中間発表という意味合いもあった。本展では、日本初公開の中国の動物化石約70点の迫力ある展示を中心に、化石の研究の紹介や博物館における研究の大切さを解説した。また、企画展では初めて展示解説ボランティアを試験的に導入した。

企画展「絶滅と進化」テープカット



企画展「絶滅と進化」展示室風景

3) 水族企画展「南の島の魚たち—琉球列島の淡水魚」

会 期：平成10年7月18日(土)～10年8月30日(日) 38日間

料 金：(常設展料金)

琉球列島は、多くの島々からなっている。淡水域が少なく気候も温暖なことから、そこには本州では見ることのできない多くの魚類が分布している。本展では、リュウキュウアユ(標本)をはじめ、タナゴモドキやタメトモハゼなどの淡水魚類を水槽展示し、琉球列島の地史と生物相の形成を紹介するとともに、人びとと水との関わりについて写真パネルやリーフレットで紹介した。



水族企画展「南の島の魚たち」リュウキュウアユの展示

水族企画展「南の島の魚たち」展示風景



(3) 水族トピック展示

水族展示・ふれあい体験室前または水族企画展示室において、館内で繁殖した魚の稚魚や話題性のある水生生物を展示するトピック展示を行った。内容と期間は以下のとおりであった。

1998年	7月22日～8月9日	イワトコナマズの幼魚	(ふれあい体験室)
	8月10日～8月30日	アユモドキの稚魚	(ふれあい体験室)
	9月1日～9月27日	ウシモツゴの稚魚	(ふれあい体験室)
	9月29日～11月1日	オヤニラミの稚魚	(ふれあい体験室)
	11月10日～11月29日	ゼニタナゴの稚魚	(ふれあい体験室)
	11月30日～1月31日	ビワマスの卵と稚魚	(ふれあい体験室)
1999年	2月8日～2月28日	カスミサンショウウオの卵塊と成体	(ふれあい体験室)
	3月17日～4月11日	少なくなった魚たちー滋賀県でレッドリストに加わった魚 11種約100点展示	(水族企画展示室)

(4) ギャラリー展示「ワクワクたんぼ探検」

主催：滋賀県農政水産部、琵琶湖博物館

期間：平成10年10月13日(火)～平成10年11月15日(日) 29日間

料金：無料

観覧者数：30,577人

本県の農業は、基礎的な食料供給という本来的な役割に加え、琵琶湖を中心とした近江盆地の土地利用の骨格を形成する最も環境との関わりの深い産業として県土保全、水資源の涵養、景観維持等の環境保全にも大きな役割を果たしている。

本展では、消費者と農業の接点である「茶わん一杯のご飯」を起点として、日常風景として眺めている「たんぼ」からは見えない世界を見ることにより、農業・農村の持つ多面的な役割や食の重要性について考えてもらう場を提供した。

- 展示内容：1. 茶わん一杯のご飯
 2. お米と健康との関わり
 3. 田んぼフィールド探検
 4. 環境への働きかけ
 5. 農村の今を考える

屋外行事：○お米の味比べとブルーギル試食体験 … 10月18日、11月3日

○わら細工体験 … 10月31日、11月7日

○餅つきとブルーギル試食体験、ポン菓子体験 … 11月15日

関連行事：1) 「農と環境を考える集い」～たんぼと人と自然、そのすばらしい関係～

期 日：平成10年10月17日(土) 10:00～15:00

場 所：琵琶湖博物館ホール

ゲ ス ト：アン・マクドナルドさんを迎え、館長川那部浩哉と琵琶湖博物館ホールにおいて対談をおこなった。なお、この対談は本館発行の“うみんど9号”に掲載した。(カナダ出身のエッセイスト、宮城県立大学講師)

参 加 者：232名

2) ミニ探検ツアー 「秋の里山観察会」 1998年11月1日(日) 10:00～15:00

大津市堅田周辺の丘陵地帯において、植物や動物の観察会を実施した。

3) コンニャクづくりと手漉き和紙見学会 1998年11月8日(日) 9:30～15:00



ギャラリー展示「ワクワクたんぼ探検」
 入口付近(米俵でみんな集まれ!)



ギャラリー展示「ワクワクたんぼ探検」
 展示室風景(ワンパク子供達は朝ごはん何食べた?)

(5) 展示関連の主な印刷物

印刷物の名称	版	頁数	発行部数
展览会のご案内	A 4	(三つ折)	10,000
企画展図録「近江はトンボの宝庫」展示解説書	A 4	32	2,000
企画展「近江はトンボの宝庫」チラシ	A 4		22,000
企画展「近江はトンボの宝庫」ポスター	A 2		1,500
企画展図録「絶滅と進化」展示解説書	A 4	64	2,000
企画展「絶滅と進化」チラシ	A 4		40,000
企画展「絶滅と進化」ポスター	B 2		1,500
水族企画展「南の島の魚たち」リーフレット	A 4	8	30,000

6 国際交流活動

(1) フランス・パリ『国立自然史博物館』と琵琶湖博物館の相互協力に関する覚え書きの締結

1998年9月25日に本館とパリの国立自然史博物館(Le Museum National d'Histoire Naturelle)との間で相互協力に関する覚書が調印された。その経過と内容は以下のとおりである。

《覚え書き調印までの経過》

1997年6月に琵琶湖博物館で行われた「世界古代湖会議」の後、同年夏に国立自然史博物館の一部に属する「進化大博物館(Grande Galerie de l'Evolution)」から、琵琶湖博物館との間で協力に関する協定を締結したいとの要請があった。そこで同年10月に本館の川那部館長がパリを訪れる機会に、楠岡主任学芸員を同行し、進化大博物館を訪問し、その館長ブランダン(Patrick Blandin)教授から改めて要請がなされ、打ち合わせを行った。

1998年7月になって、進化大博物館だけでなく、国立自然史博物館全体のものにしたいとの要請がフランス側から川那部館長に対してなされた。その後覚書の内容を相互に検討し、1998年9月この覚書の調印を行った。なお、調印は本館川那部館長と国立自然史博物館ドゥ・リュムリー(Henry de Lumley)館長とのあいだで行われ、調印式にはブランダン教授、本館の嘉田総括学芸員が同席した。

《覚書の内容》

- ① 研究者、博物館職員の交流
- ② 共同研究、シンポジウム、特別展などに関する交流
- ③ 方法論や技術に関する交流
- ④ 出版物、資料、標本などの交換
- ⑤ その他



滋賀県立琵琶湖博物館とパリ国立自然史博物館間の 相互協力に関する覚え書き

滋賀県立琵琶湖博物館およびパリ国立自然史博物館（以下「両館」とよぶ。）は、ここに相互の友好を深め、研究等博物館活動に関する交流を促進する意図のもとに、相互協力に関する覚え書きを交わす。

1. 両館は特に次の諸活動を行うことを奨励する。
 - 1) 研究者等博物館職員の交流
 - 2) 共同研究プロジェクト、シンポジウム、特別展等に関する交流
 - 3) 技術や方法論に関する情報交換
 - 4) 出版物、資料、標本の交換
 - 5) 博物館間で合意を得た博物館活動に関する他の事柄の交流
2. 前項の諸項目の具体化については相互利益の原則のもとに、それぞれの国の法律および館の能力に則り、関係部局で協議のうえ実施するものとする。
3. 両館は、協力関係を実現するために、いろいろな所から資金を調達すべく、努力を行う。
4. 本覚え書きの有効期間を調印から5年とする。相互に協議により、更新も変更も可能である。
5. 本覚え書きの原文を、英語で作成する。

調印日

滋賀県立琵琶湖博物館
館長 川那部浩哉

調印日

パリ国立自然史博物館
館長 アンリ・ドゥ・リュムリー

Memorandum of Cooperation Between The Lake Biwa Museum and The National Natural History Museum of Paris

The Lake Biwa Museum and the National Natural History Museum of Paris (the two museums hereinafter referred to as the Parties), hereby agree to deepen the friendship between the parties and to promote the development of research and other museum activities on both sides by establishing a formal collaborative academic relationship.

Article 1:

The Parties agree to promote the following activities:

1. Exchange of researchers and other museum staff.
2. Cooperation in joint research projects, joint symposia and special exhibitions.
3. Exchange of techniques and professional expertise.
4. Exchange of publications, information and specimens.
5. Exchange or cooperation in other museum activities, to be determined through future discussions.

Article 2:

The Parties agree to carry out the above according to their abilities, in a spirit of reciprocity and in accordance with the laws of their respective countries through discussion between the Parties and related agencies.

Article 3:

The Parties will make efforts to raise funds from various sources to make the programmes for cooperation feasible.

Article 4:

This memorandum is effective for five years from the date of signing. It is renewable and can be modified by mutual agreement.

Article 5:

This memorandum has been drawn up in English.

Date *25 September, 1998*



Hiroya Kawanabe
Director
Lake Biwa Museum.

Date *Vendredi 25 septembre 1998*



Henry de Lumley
Director
National Natural History
Museum of Paris.

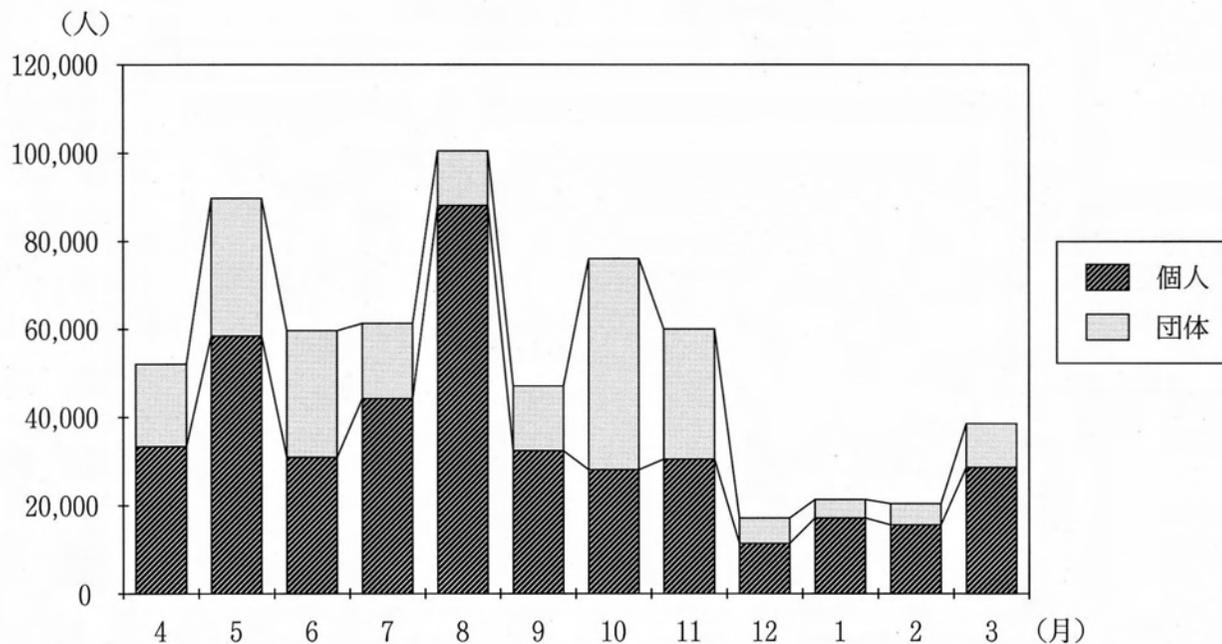
Ⅱ 利 用 状 況

1 平成10年度入館者数

(1) 総入館者数

年 月	開館日数(日)	有 料 入 館 (人)				無 料 入 館 (人)								総 計 (人)	1日当り平均(人)
		一 般	高大学生	小中学生	有料計	65歳以上	身障者	家庭の日	体験学習	子供の日	学校行事	その他	無料計		
10 4	25	35,445	4,360	7,860	47,665	720	312	432	72		2,700	154	4,390	52,055	2,082
10 5	27	59,347	8,778	15,810	83,935	1,299	627	421	50	477	2,740	227	5,841	89,776	3,325
10 6	25	41,992	2,189	8,627	52,808	1,232	909	299	86		4,162	116	6,804	59,612	2,384
10 7	27	46,717	1,645	9,935	58,297	1,413	500	246	35		715	109	3,018	61,315	2,271
10 8	26	70,880	3,257	23,472	97,609	1,194	704	222	64		425	344	2,953	100,562	3,868
10 9	20	36,957	1,425	5,463	43,845	498	409	359	45		1,604	306	3,221	47,066	2,353
10 10	27	42,084	1,569	20,421	64,074	1,495	776	392	26		8,953	345	11,987	76,061	2,817
10 11	24	45,256	1,373	9,148	55,777	908	568	223	17		2,286	203	4,205	59,982	2,499
10 12	23	13,299	658	2,303	16,260	286	121	149	17		283	55	911	17,171	747
11 1	24	16,482	514	3,009	20,005	236	110	288	21		657	76	1,388	21,393	891
11 2	23	15,111	576	3,552	19,239	193	141	298	31		383	170	1,216	20,455	889
11 3	26	28,047	1,363	6,985	36,395	553	315	297	20		716	242	2,143	38,538	1,482
計	297	451,617	27,707	116,585	595,909	10,027	5,492	3,626	484	477	25,624	2,347	48,077	643,986	2,168

平成10年度 月別来館者数



(2) 学校等入館者数

上段(全体) 下段(県内)

年 月		小 学 校		中 学 校		高 校		その他学校		総 計	
		学校数	人 数	学校数	人 数	学校数	人 数	学校数	人 数	学校数	人 数
10	4	16	1,774	5	431	21	4,013	1	35	43	6,253
		2	188	4	396	12	2,172	1	35	19	2,791
10	5	74	5,480	25	3,554	35	6,724	7	136	141	15,894
		26	1,649	5	810	1	200	4	81	36	2,740
10	6	45	3,564	28	4,527	10	1,439	1	10	84	9,540
		28	2,058	9	1,580	4	435	1	10	42	4,083
10	7	6	427	15	1,285	7	182	0	0	28	1,894
		3	104	8	526	4	48	0	0	15	678
10	8	5	287	7	141	3	119	0	0	15	547
		3	178	7	141	2	34	0	0	12	353
10	9	28	1,829	3	168	6	596	2	45	39	2,638
		20	1,252	0	0	2	315	2	45	24	1,612
10	10	248	20,786	30	5,497	14	825	4	125	296	27,233
		99	7,710	6	922	4	125	1	26	110	8,783
10	11	46	3,595	20	3,105	11	899	3	103	80	7,702
		23	1,503	3	331	6	476	1	8	33	2,318
10	12	10	970	1	6	3	112	0	0	14	1,088
		3	169	1	6	3	112	0	0	7	287
11	1	12	957	0	0	1	310	1	21	14	1,288
		3	333	0	0	1	310	0	0	4	643
11	2	19	1,637	0	0	3	98	0	0	22	1,735
		6	362	0	0	0	0	0	0	6	362
11	3	20	1,087	2	241	8	555	2	14	32	1,897
		2	36	2	241	3	369	2	14	9	660
計		529	42,393	136	18,955	122	15,872	21	489	808	77,709
		218	15,542	45	4,953	42	4,596	12	219	317	25,310

(3) 曜日別入館者数

年	月	日曜・祝祭日	土曜日(祝日除く)	その他	計
10	4	20,620	9,558	21,877	52,055
10	5	46,596	12,087	31,093	89,776
10	6	20,833	11,390	27,389	59,612
10	7	25,376	9,938	26,001	61,315
10	8	28,812	20,039	51,711	100,562
10	9	25,455	9,651	11,960	47,066
10	10	18,395	9,637	48,029	76,061
10	11	27,899	8,335	23,748	59,982
10	12	7,072	3,438	6,661	17,171
11	1	9,816	4,055	7,522	21,393
11	2	9,751	4,236	6,468	20,455
11	3	16,677	6,501	15,360	38,538
計		257,302	108,865	277,819	643,986
構成割合%		40.0	16.9	43.1	100.0



入館者200万人突破

11月23日 開館約2年1ヶ月で200万人目の入館者を迎える。

当初の予想をはるかに超えるスピード達成となった。

2 来館者アンケート調査結果

来館者動向を把握するために、a) 来館回数、b) 情報源、c) 年齢、d) 住まいの4点について平成10年度には以下のように3回のアンケート調査を実施した。調査期間と回答者数は表に示したとおりであった。

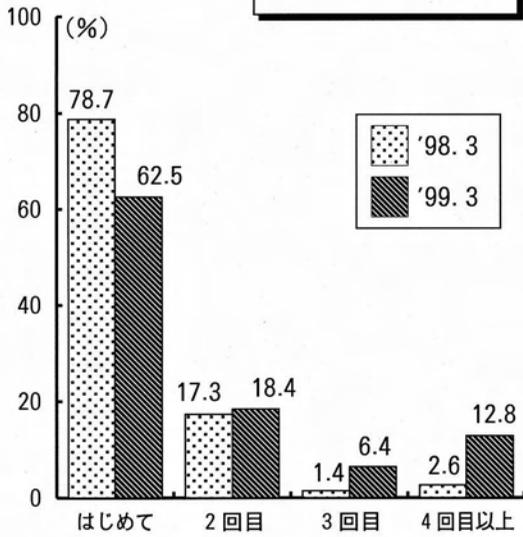
回	調査期日	回答者数
1	1998年8月14～16日	845人
2	1998年11月6～12日	590人
3	1999年3月20～22日	534人

【来館者の動向】

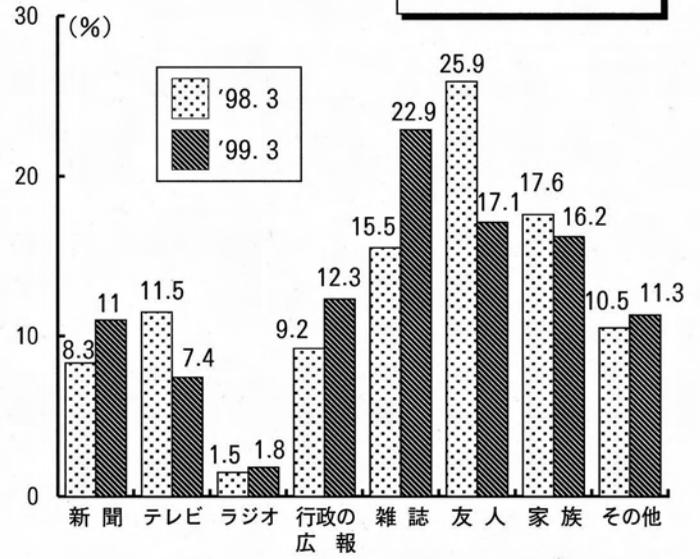
来館者の年による大きな動向を把握するために、今回は各年の3月におけるアンケート調査結果を分析することにする。1998年3月と1999年3月を比較すると、1999年3月には「はじめて」という人は減少し、その逆に「2回以上」のリピーターが増えており、その割合は37%にもなっている。他館の正確な比較データは少ないが、リピーターの多さが本館の特徴といえるだろう。4回以上のリピーターも13%となっている。このアンケート調査にはないが、オピニオンコーナーや展示交流員からの情報によると、15回、20回、あるいは30回というような「超っっこみリピーター」も現れている。

年齢をみると、20代、30代という若年世代が多いのは例年の傾向であるが、1998年度は特に30代が多くなっていた。また、「情報源」の比較では相変わらず友人や家族などの「口コミ」が多いが、「雑誌」も増えていた。春休みの連休の「おでかけ情報」を雑誌から得た人が多いと思われる。「居住地」比較では、1997年度には50%を超えていた滋賀県内比率は、急激に落ちて25%止まりになっており、逆に京都と大阪がそれぞれ20%を超えていた。また、東海地方が急激にふえ、14%近く増えていることが今回の特色として指摘できる。これは、1998年度の本館広報活動を東海地方に焦点をあて、新聞などで広報を行ってきたことの効果が現れたものと推測される。

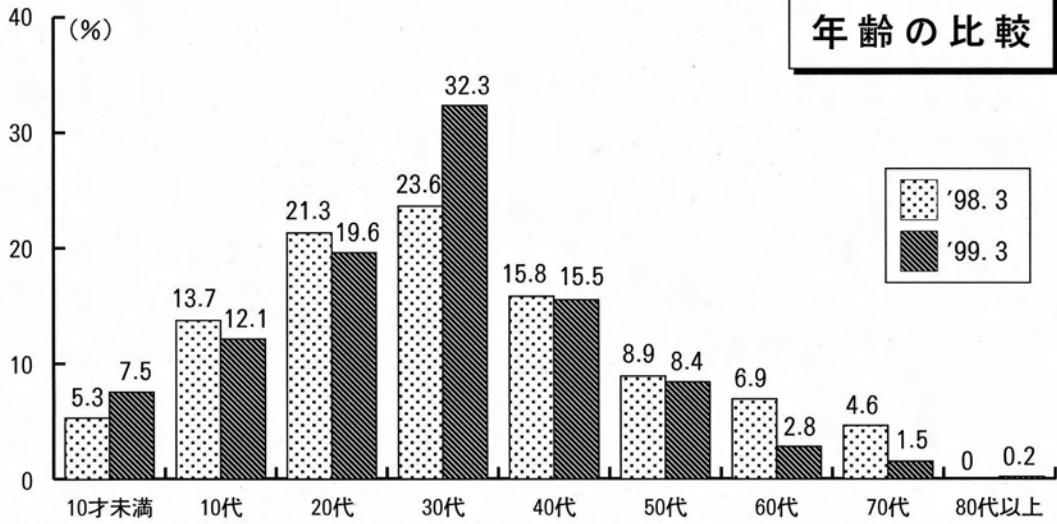
来館回数の比較



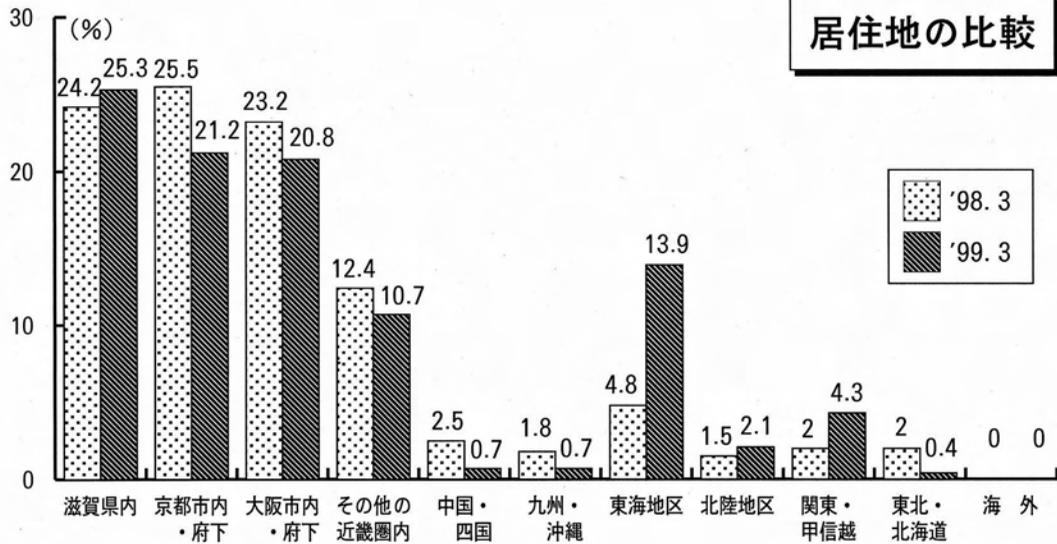
情報源の比較



年齢の比較



居住地の比較



3 新聞掲載（取材）記録

月日	記事タイトル	新聞社名	月日	記事タイトル	新聞社名
4 4	しがキャンパス通信 学問のすすめ 川那部 浩哉さん	京都新聞	6 6	「世界環境デー」にちなみ琵琶湖博物館でシンポ	京都新聞
5	宝の湖 琵琶湖博物館を訪ねて 大津支局長から	中日新聞	6	読者の欄 「窓」投稿文	京都新聞
7	琵琶湖博物館の総合案内書完成	読売新聞	6	ワイドビュー 滋賀県の環境保全、真価これから	日本経済新聞
7	琵琶湖博物館が案内書発行	京都新聞	6	どうする環境 世界環境問題 琵琶湖博物館でシンポ	中日新聞
10	タンポポ、ホテル調査へ住民参加で広く募る	京都新聞	16	'97年滋賀県の観光客過去最高	日本経済新聞
10	タンポポとホテル分布・生息調査を県民参加型で	産経新聞	17	「エコ草津体験隊」始まる	京都新聞
11	ホテル・タンポポ県民が参加生息調査	毎日新聞	18	平安神宮神苑の一文タナゴについて 秋山廣光主任学芸員	産経新聞
14	あなたも地元の研究者 タンポポ・ホテルで環境調査	朝日新聞	18	観光客、最多の4,264万人	読売新聞
19	琵琶湖攻略新スポット 「琵琶湖博物館」	夕刊フジ	22	現代のことば 「ついでさま」と「その気さま」 嘉田由紀子	京都新聞 (夕刊)
22	琵琶湖博物館、入館者150万人突破	読売新聞	25	琵琶湖との関わり考え合同学習会	新宗教新聞
22	県立琵琶湖博物館開館以来の入館者150万人突破	朝日新聞	28	第1回琵琶湖博物館研究発表会で報告 近江はトンボの宝庫	京都新聞
22	琵琶湖博物館入館者150万人達成	毎日新聞	28	黄色いアマガエルについて 琵琶湖博物館談	中日新聞
22	琵琶湖博物館の入館者446日目で150万人突破	京都新聞	30	琵琶湖博物館 学芸員ら研究成果発表	読売新聞
22	もうすぐゴールデンウィークあなたはどこへ?	産経新聞	7 7	湖国観光客 昨年、最高の4,264万人	京都新聞
23	GW行楽地に40万人県警予想	朝日新聞	9	オピニオン解説 クラゲ飼育について 琵琶湖博物館談	京都新聞
23	GW出人出40万人県警予想	読売新聞	16	琵琶湖博物館 2つの企画展	京都新聞
24	県警が出人出予想行楽地へは40万人	中日新聞	19	「近江はトンボの宝庫」展 琵琶湖博物館	毎日新聞
24	現代のことば 「桜散る頃、雨夜のホテル」 嘉田由紀子	京都新聞 (夕刊)	24	SEE 夏休みに親子で楽しめるスポット「滋賀県立琵琶湖博物館」	読売新聞 (夕刊)
29	琵琶湖博物館特別研究セミナー開催	読売新聞	25	県立琵琶湖博物館が「びわ湖・ミュージアムスクールモデル事業」開始	京都新聞
30	凡語 タンポポ調査に関して	京都新聞	26	琵琶湖博物館プログラム提供 ユニーク新事業 「びわ湖・ミュージアムスクールモデル事業」	産経新聞
5 3	みんなでスピーキング タンポポが語る身の周りの自然	毎日新聞	8 1	県広報 夢ふくらむ夏の滋賀 琵琶湖博物館の催し 8月	各紙
4	環境講座の参加者を彦根ロータリークラブ募集	京都新聞	1	湖のファンタジー聞こえるヨ 滋賀・草津の琵琶湖博物館	中日新聞
10	竹の花が咲く 琵琶湖博物館談	毎日新聞	3	教育レポート'98 博物館と湖上で夏休みの集中講義	中日新聞
11	伊吹山北尾根ふれあいウォーク 動植物の観察	中日新聞	4	琵琶湖博物館の企画展「近江はトンボの宝庫」開催中	読売新聞
12	伊吹山北尾根ウォーク 自然保護意識 狙い初の企画	朝日新聞	6	琵琶湖博物館 希少淡水魚10種繁殖成功	京都新聞
13	どうする環境 水と地球問題考えよう	中日新聞	6	夏休みの自由研究に「琵琶湖周遊ファミリークルージング」をどうぞ	京都新聞 (夕刊)
22	エコー 官民連携で脱・添え物 斎藤鮎家社長	日本経済新聞	7	琵琶湖博物館 絶滅危惧種の10種、繁殖に成功	産経新聞
23	長浜でカシミサンショウウオ発見	京都新聞	8	“進化”する博物館 琵琶湖博物館	日本経済新聞
26	地球の環境問題を考える 琵琶湖博物館でシンポジウム	産経新聞	8	近江鉄道旅行センター 琵琶湖バスツアー受付	毎日新聞
6 2	湖国随想 「50年ぶりの乱舞」 嘉田由紀子	中日新聞			
4	「ホテルダス調査」10年目 水と文化研究会	京都新聞			
4	県立琵琶湖博物館 初の研究発表会を開催	京都新聞			

月日	記事タイトル	新聞社名	月日	記事タイトル	新聞社名	
8	11 琵琶湖博物館 高校の「教室」に变身	朝日新聞	9	8 みんなのQ&A ハンズオンについて	朝日新聞	
	11 琵琶湖博物館 貴重な淡水魚の稚魚誕生	読売新聞		9 ヨシ需要喚起 新商品次々	日本経済新聞 (夕刊)	
	11 琵琶湖博物館 今年も「標本相談室」	読売新聞		10 琵琶湖博物館 農村のくらし紹介	京都新聞	
	13 琵琶湖博物館 イワトコナマズの稚魚が自然繁殖	京都新聞		10 琵琶湖博物館 中長期計画の検討委員を募集	京都新聞	
	14 琵琶湖博物館 「冒険した靴」テーマ絵募る	京都新聞		11 県立琵琶湖博物館 中長期計画検討委員メンバーを募集	朝日新聞	
	15 県立琵琶湖博物館 希少淡水魚の繁殖成功	中日新聞		11 琵琶湖の生物たち「ビワコオオナマズ」(写真提供)	産経新聞	
	15 琵琶湖博物館 スッポン大脱走 通路で産卵	京都新聞		16 随想 蛇口のむこう 嘉田由紀子	神戸新聞	
	16 フォローアップ 琵琶湖の湖底遺跡を常設展示	京都新聞		17 国内最古のゾウの足跡化石発見 高橋専門学芸員の話	朝日新聞	
	17 One-day bus trips touring around Lake Biwa	MAINITI DAILY NEWS		18 琵琶湖の生物たち「ニゴロブナ」(写真提供)	産経新聞	
	19 絶滅危ぐ種ミズアオイ 住民が保存会を設立	中日新聞		23 環 瀬戸内新時代 人工繁殖で種の保存に努力	読売新聞	
	21 県立琵琶湖博物館の企画展 「近江はトンボの宝庫」	産経新聞		25 琵琶湖の生物たち「ビワマス」(写真提供)	産経新聞	
	21 家庭用ペットの引き取り 琵琶湖博物館の場合	産経新聞		25 ニュー滋賀 琵琶湖博物館の催し 10月分 ギャラリー展示 ワクワクたんば探検 第9回生態学琵琶湖賞 授賞式・記念講演	各紙折り込み	
	22 絶滅危惧種の淡水魚 繁殖に成功し稚魚公開 琵琶湖博物館	朝日新聞		30 この人 「たんば探検」を知って 水上二己夫さん	毎日新聞	
	23 琵琶湖博物館 夏休み相談室開催	中日新聞		10 2 随想 パリのおのぼりさん 嘉田由紀子	神戸新聞	
	23 琵琶湖博物館 夏休み標本相談室	朝日新聞		2 「生態学琵琶湖賞」決まる	朝日新聞	
	24 県立琵琶湖博物館企画展「南の島のさかなたち」	産経新聞		8 猛きん類保護へ12月にシンポ 琵琶湖博物館で開催	京都新聞	
	24 現代のことば 「仕事とほこり」 川那部浩哉	京都新聞 (夕刊)		10 県立琵琶湖博物館 研究協力でパリの自然史博物館と覚書	読売新聞	
	27 灯 琵琶湖博物館で育てている金色のオタマジャクシ	京都新聞		10 琵琶湖博物館 仏の自然史博物館と協力	産経新聞	
	28 自生ミズアオイピンチ!! 布谷知夫総括学芸員が警告	中日新聞		10 琵琶湖博物館と仏自然史博物館 研究協力で覚書締結	中日新聞	
	30 被災者を元気づけよう コープしが琵琶湖博物館に招待	毎日新聞		10 琵琶湖博物館 仏の博物館と相互協力の覚書に調印	毎日新聞	
	30 「滋賀ミズアオイ研究会」結成 代表に芦谷学芸員	朝日新聞		10 琵琶湖と仏博物館 相互協力の覚書を締結	京都新聞	
	9	1 琵琶湖博物館 学芸職員を募集		京都新聞	10 相互協力で覚書 仏と琵琶湖博物館同士	朝日新聞
		2 琵琶湖博物館 7日から臨時休館		読売新聞	10 230万年前の琵琶湖 ワニ生息していた	京都新聞
		2 「生態学琵琶湖賞」授賞式琵琶湖博物館で		京都新聞	10 230万年前の古琵琶湖層調査 赤ちゃんワニの足跡くっきり	毎日新聞
		2 群生地減少のミズアオイ 琵琶湖博物館などが研究会結成		京都新聞	10 230万年前の子ワニ足跡 小さな化石大発見	中日新聞
		3 絶滅危ぐ種ミズアオイの保護計画づくりへ情報求む		読売新聞	16 現代のことば 「京都の原住民」 川那部浩哉	京都新聞 (夕刊)
		4 <教育>博物館は教室代わり「びわ湖・ミュージアムスクールモデル事業」		読売新聞	16 琵琶湖の生物たち 「オオクチバス」(写真提供)	産経新聞
		5 琵琶湖博物館 中長期計画委員募る		読売新聞		
		8 絶滅危惧種ミズアオイの情報募る 琵琶湖博物館		産経新聞		
	8 ミズアオイの情報提供を呼びかける	毎日新聞				

月 日	記事タイトル	新聞社名	月 日	記事タイトル	新聞社名
10 18	琵琶湖博物館 ギャラリー展「ワクワクたんぼ探検」開催	産経新聞	12 13	アジアの猛禽類保護を 琵琶湖博物館でシンポ	毎日新聞
18	広告のページ 探求の秋 琵琶湖博物館	読売新聞	13	草津で猛きん類シンポ アジアの生息数や生態報告	京都新聞
19	随想 沖島の事情 嘉田由紀子	神戸新聞	13	アジア猛禽類保護ネットを 草津でシンポ	読売新聞
20	琵琶湖博物館 パソコン通信ネットを開設	朝日新聞	13	東南アジアの猛禽類を守れ 草津でシンポ開幕	中日新聞
24	生態学琵琶湖賞 琵琶湖博物館で授賞式	京都新聞	17	写真家・故前野さんしのび、有志が遺作展企画	京都新聞
25	西田教授に生態学琵琶湖賞 琵琶湖博物館で受賞式典	中日新聞	18	琵琶湖の生物たち 「テナガエビ」(写真提供)	産経新聞
31	琵琶湖博物館で真野中生ら体験学習	京都新聞	22	姿あらわす500万年前の世界 琵琶湖博物館企画展	中日新聞
11 4	随想 「探偵ナイトスコープ」と社会学調査 嘉田由紀子	神戸新聞	22	琵琶湖博物館企画展 マンモスなど日本初公開	読売新聞
12	自然界の“異変”次々 琵琶湖博物館の談話	毎日新聞	22	地域総合ニュース6月 琵琶湖博物館が研究発表会	京都新聞
14	Shiga government fighting to rescue 'dying' Lake Biwa	The Daily Yomiuri	23	県立大に大学院設置 琵琶湖博物館館長や総括学芸員らが非常勤講師に	朝日新聞
19	随想 「水質」だけをとりあげる認識の暴力 嘉田由紀子	神戸新聞	26	琵琶湖博物館 フィールド・リポーター活躍中	朝日新聞
20	琵琶湖の生物たち 「ワカサギ」(写真提供)	産経新聞	27	琵琶湖岸 コンクリ護岸埋め立て再生	読売新聞
24	県立琵琶湖博物館 入館者200万人突破	京都新聞	1 1	年始企画 県民アンケート「あなたは生き生きしていますか？」 仕事にやりがい 八尋克郎さん	京都新聞
24	琵琶湖博物館来館者200万人 2年1カ月で達成	毎日新聞	1	'99湖国の街から 豊かな水生むブナ守れ	京都新聞
24	開館624日目に入館者200万人 草津の琵琶湖博物館	中日新聞	6	ラムサール条約登録5周年記念 来月多彩な催しを企画	京都新聞
24	草津の琵琶湖博物館 入館者200万人達成	読売新聞	7	関西かがやき会議「広域連携」へ向け発信100人 川那部浩哉館長	産経新聞
24	県立琵琶湖博物館 来館者200万人突破	産経新聞	8	琵琶湖の生物たち 「コイ」(写真提供)	産経新聞
24	入館者200万人突破 琵琶湖博物館	朝日新聞	9	70点の動物化石を公開 15日から琵琶湖博物館企画展	毎日新聞
26	琵琶湖博物館タンポポ調査 帰化種、分布域が拡大	朝日新聞	9	ラムサール条約登録を記念 琵琶湖の水鳥一斉に調査	読売新聞
26	琵琶湖博物館 タンポポの県内分布調査の結果発表	京都新聞	12	ラムサール条約登録5周年記念 水鳥の楽園「琵琶湖」守り続ける為に	産経新聞
27	琵琶湖博物館 県民参加の県内タンポポ調査の結果発表	中日新聞	13	琵琶湖のラムサール条約登録5周年 改めて 意義 理解を	朝日新聞
27	琵琶湖の生物たち 「イサザ」(写真提供)	産経新聞	15	琵琶湖の生物たち 「ブルーギル」(写真提供)	産経新聞
12 3	県内のタンポポ分布 県立琵琶湖博物館が調査	産経新聞	15	500万年前の進化探る企画展 きょうから琵琶湖博物館で	京都新聞
4	県立琵琶湖博物館 来年1月に企画展	中日新聞	15	県立琵琶湖博物館 きょうから「化石500万年史」展	朝日新聞
7	季節はずれのツツジの花について 琵琶湖博物館談	中日新聞	15	滋賀県立琵琶湖博物館企画展 きょうから開催	産経新聞
8	野洲川河床の化石まとめ冊子	中日新聞	15	「東アジア500万年」動物化石を展示 琵琶湖博物館で	中日新聞
10	現代のことば 200万人の「おもさ」 川那部浩哉	京都新聞(夕刊)	16	動物化石で“古代の旅” 琵琶湖博物館で開幕	毎日新聞
13	県立琵琶湖博物館のタンポポ調査「在来種」の地点比率44%	毎日新聞			
13	「東南アジア猛きん類シンポ」琵琶湖博物館で開幕	朝日新聞			

月日	記事タイトル	新聞社名	月日	記事タイトル	新聞社名	
1	16 琵琶湖博物館 フランス自然史博物館と提携	朝日新聞	2	21 カワウの被害深刻に 亀田学芸員のコメント	中日新聞	
	19 琵琶湖のラムサール条約登録5周年 来月7日記念イベント	中日新聞		24 読者の欄 <窓>琵琶湖守って水鳥増やそう	京都新聞	
	23 淡海エコツーリズムモニターツアー参加者募集	朝日新聞		25 幕末期の琵琶湖パノラマ図 大津市歴史博物館公開	産経新聞	
	24 環境ネットワーク トンボの環境保護	産経新聞		25 琵琶湖のパノラマ 江戸末期写生図、発見	毎日新聞	
	24 発信<滋賀>環境テーマにシンポ 川那部館長が講演	産経新聞		25 川那部館長を囲んで「アユと川を考える」フォーラム	朝日新聞(夕刊)	
	25 <広告掲載> 絶滅と進化 好評開催中	中日新聞		3	3 故前野隆資さん遺作展 大津市歴史博物館で	中日新聞
	28 ニュー滋賀 琵琶湖博物館の催し 2月分	各紙折り込み			11 滋賀県立琵琶湖博物館の企画展好評	東京新聞
	29 琵琶湖の生物たち 「ニジマス」(写真提供)	産経新聞			11 気づいてますか 水道の敵カワヒバリガイ	京都新聞(夕刊)
	2	4 京滋連携へ両知事初懇談 琵琶湖博物館にて			京都新聞	12 琵琶湖の生物たち 「スジエビ」(写真提供)
4 滋賀・京都両知事が懇談 琵琶湖博物館にて		産経新聞	14 滋賀県立琵琶湖博物館体験学習「ヨシ笛を作ろう」	京都新聞		
4 京都・滋賀両知事が連携話し合う		毎日新聞	16 下物地区の産業振興エリアの草津のグリーンツーリズム構想について	京都新聞		
4 滋賀、京都両知事一致 琵琶湖保全で協力へ		朝日新聞	18 県立琵琶湖博物館で水族トピック展開催 「少なくなった魚たちー県でレッドリストに加わった魚」	京都新聞		
4 国松知事が環境保全へ京都と連携		中日新聞	19 琵琶湖博物館「少なくなった魚たち」11種100匹展示	産経新聞		
4 京都・滋賀の両知事 環境・観光政策連携強化で合意		日本経済新聞	22 「琵琶湖眺望真景図」「琵琶湖真景図」比べてみると	中日新聞		
7 天眼 滋賀県の新しい文化への期待 岡田節人氏		京都新聞	22 第1回日本水大賞	読売新聞		
8 ラムサール条約登録5周年で「カウントライブ」		朝日新聞	25 <ふるさと湖国>草津市	京都新聞		
8 世界湿地の日 水鳥カウントライブやTV会議		中日新聞	25 琵琶湖保全計画発表 湖辺域の自然回復	京都新聞		
9 カワウのふん、生態系への影響を3年計画で調査		朝日新聞	26 気づいてますか 釣りブームの陰で	京都新聞		
9 びわ湖自然環境ネットワークのシンポジウムで川那部館長基調講演		朝日新聞	27 この人・この話題 琵琶湖博物館館長 川那部浩哉さん	京都新聞		
10 縄文住居に仲良く人と犬の足跡発見		中日新聞	27 琵琶湖を守れ! ブルーギル捕獲作戦 中井学芸員の話	産経新聞(夕刊)		
12 びわ湖環境ネットがシンポ 川那部館長が基調講演		読売新聞	28 県立琵琶湖博物館で「ヨシ笛作り工作教室」開かれる	朝日新聞		
12 「びわ湖自然環境ネットワーク」がシンポ 川那部館長が基調講演		朝日新聞	28 窓 滋賀県立琵琶湖博物館でレッドデータブックに加わった淡水魚の展示	日本経済新聞		
12 琵琶湖の生物たち 「カネヒラ」(写真提供)		産経新聞	31 ニュー滋賀 琵琶湖博物館の催し 4月分	各紙折り込み		
15 現代のことば 良いところは褒めるな 川那部浩哉		京都新聞(夕刊)	31 琵琶湖博物館 生息地失った魚類を紹介	毎日新聞		
18 情報ファイル 滋賀 琵琶湖博物館の企画展		中日新聞	31 琵琶湖博物館 「少なくなった魚たち」展開く	朝日新聞		
20 躍動する草津 烏丸半島の整備で活気		京都新聞				

4 雑誌等掲載（取材）記録

月	記事テーマ	掲載雑誌名等	月	記事テーマ	掲載雑誌名等
4	「水の話」淡水にすむ魚 琵琶湖博物館1周年で来館者数120万人を突破 これからのミュージアムのあり方を考える「滋賀県立琵琶湖博物館」 WEEKEND WALKER'S SPECIAL 琵琶湖のすべてが学べる琵琶湖博物館 博物館の新しい試み 滋賀県立琵琶湖博物館 近くて、いい旅 電車&ウォーク Driving spot オモシロイのにタメになる、「琵琶湖のテーマパーク」 琵琶湖には、日本一大きな「ナマズ」がすんでいるんだ！ おでかけmap 琵琶湖の素顔にふれられる博物館 滋賀県立琵琶湖博物館 琵琶湖畔のおすすめエリア 水辺へ出発！ 滋賀県立琵琶湖博物館へドライブ	FUJI CLEAN NEWS AM BUSINESS no.22 AM BUSINESS no.23 SINRA 4月号 なきごえ 4月号 J R 西日本パンフレット びゅーんとびわ湖 4月号 どきどき パラダイス こどもびあ アミューズメント BOOK'98 グラフ京阪 Kansai Walker No.10	7	びわ湖de遊ぼう！ 観察施設ガイド 科学館サイエンスガイド 滋賀県立琵琶湖博物館 滋賀県立琵琶湖博物館 滋賀・琵琶湖 水辺をぐるっと散策 琵琶湖博物館催し案内 展示会催し案内 企画展「近江はトンボの宝湖」 琵琶湖と暮らし、夏模様 滋賀県立琵琶湖博物館 「母なる湖」琵琶湖は今 川崎重工広報誌 来て！見て！草津 滋賀県立琵琶湖博物館 SUMMER VACATION in OTSU 滋賀県立琵琶湖博物館 滋賀県立琵琶湖博物館 入場券プレゼント	びわ湖へでかけよう'99 マップル 21世紀こども百科科学館 関西版 びあ Leaf れいかる夏号 VOL.9 モーニングくさつ VOL.19 ハートLightしが VOL.30 Kawasaki News III 立命館大学新聞 Kansai Walker No.16 J・one
5	建築設備紹介 滋賀県立琵琶湖博物館 琵琶湖に暮らす 前野隆資写真館 ホテルレークビワ 宿泊プラン SALUT! BIWAKO REPORT SHIGA NEW SPOT 県立琵琶湖博物館 旅行けば 湖南をめぐる家族で楽しむウィークエンド大丸情報誌	AICHI EQUIPMENTS ASSOCIATION 琵琶湖ブック98 パンフレット シネマハウス サリュ！ Vol.17 関西版 びあ No.386 関西民放クラブ会報 くじゃく通信 VOL.151	8	ドライブ&プレイスポットガイド 滋賀県立琵琶湖博物館 サマープラン'98 ウォーターフロントのプチホテル+琵琶湖博物館 夏休みの宿題に役立つイベント情報 日帰り旅行プラン モデルコース 琵琶湖博物館 幸福銀行機関誌 エリアトピック 人間と湖の共存めざし 琵琶湖博物館 琵琶湖博物館からのメッセージ 対談嘉田由紀子さん 淡海木間撰 虫生野火山灰 A展示室学芸員 里口 保文	a f (auto fashion) 関西版 びあ No.393 滋賀リビング JTBパンフレット もも VOL.34 京都TODAY Vol.71 JC PRESS Duet'98. VOL.61
6	学ぶ 宝湖を知ろう JR東海情報誌	宝湖へ	9	素敵な秋の旅 琵琶湖で遊ぼう 休暇村へ行こう！近江八幡から琵琶湖博物館へ 案内 琵琶湖博物館体験学習の日 琵琶湖博物館 オシャレな琵琶湖を再発見！ びわ湖de 遊ぼう！学ぼう！ ウキウキ釣り天国 公式ネイチャーガイド 現地レポート 滋賀県立琵琶湖博物館	OPEL NEWS VOL.4 YES (JTB情報誌) びいめ〜る VOL.4 たまひよ こっこクラブ 関西版 びあ No.395 京都ライフ第29号 川物語 地方債月報
7	琵琶湖〜草津 滋賀県立琵琶湖博物館 生活協同組合情報誌 アウトドアへ出かけよう 湖上から琵琶湖へ 全労済情報誌 おすすめ水遊びスポット一覧 滋賀県立琵琶湖博物館 ミュージアム&ステイプラン ロイヤルオークホテルパンフレット	CO-OPステーション ComCom アルバイト発見マガジン an ミュゼ			

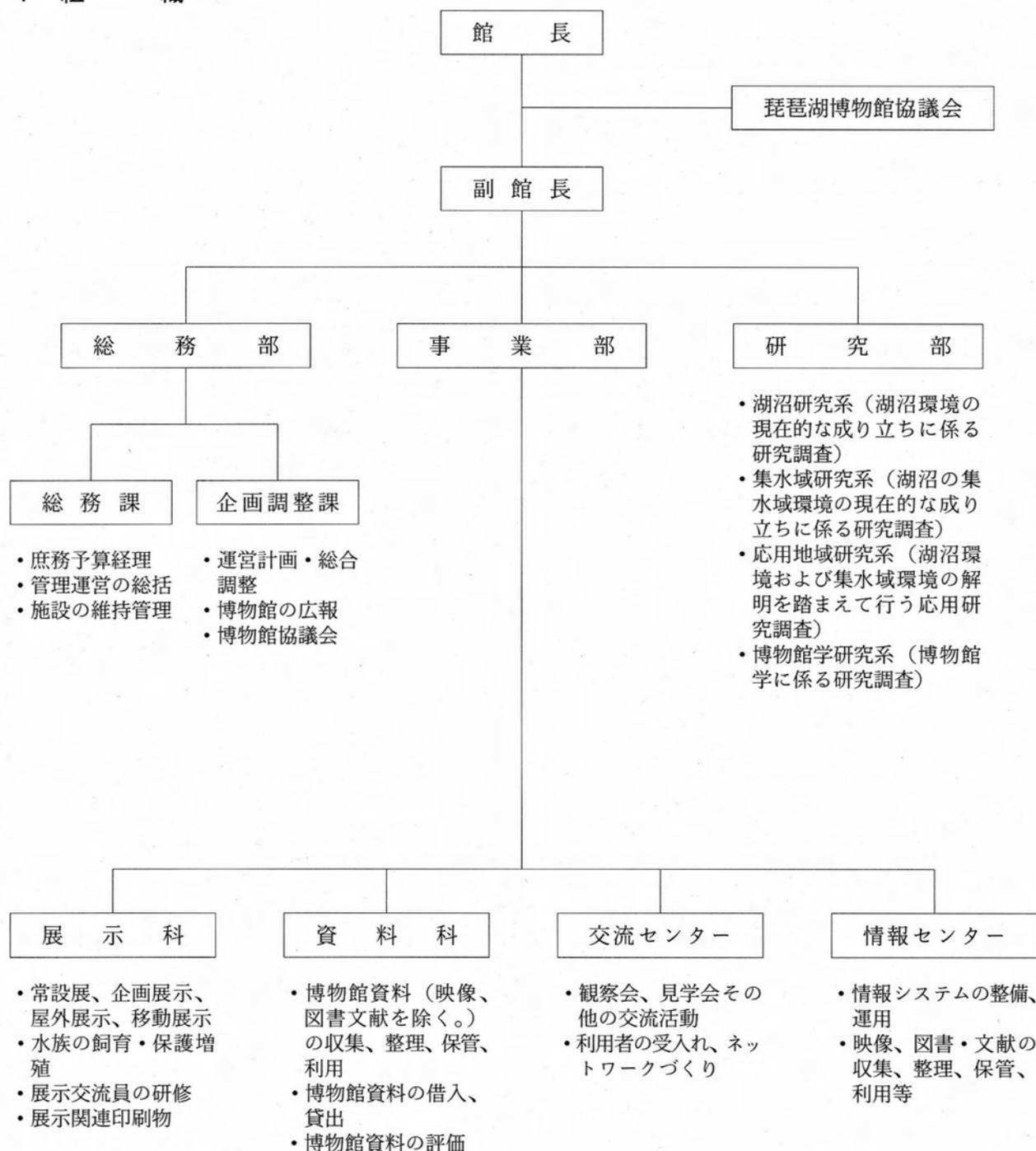
月	記事テーマ	掲載雑誌名等	月	記事テーマ	掲載雑誌名等
10	近江のトンボたちが、琵琶湖博物館に集合 口コミ情報カタログ 滋賀県立琵琶湖博物館 近江のトンボたちが、琵琶湖博物館に集合。プレゼント情報 素敵な秋の旅 「琵琶湖で遊ぼう」 県立琵琶湖博物館 企画展示「絶滅と進化」 <今月の顔>丸子船に先人の知恵をさぐる 牧野久実さんたび旅行きます(番外編)草津市 琵琶湖博物館 Drive & Car情報 琵琶湖博士になれる琵琶湖博物館 琵琶湖一周滋賀県ガイド 県立琵琶湖博物館 平安の都人も想いを馳せた琵琶湖畔 琵琶湖博物館 東海発!ドライブスポットメニュー 滋賀 琵琶湖博物館 現地直送プレゼント 琵琶湖博物館入場券 新しい博物館学の模索 あるべき博物館 水藤 真著 近畿ミュージアム訪問 滋賀県立琵琶湖博物館 information 琵琶湖博物館(滋賀県) 琵琶湖博物館 もよおしものお知らせ 休暇村近くのレジャースポット 琵琶湖博物館 びわ湖・ミュージアムスクールモデル事業 琵琶湖博物館	じゃらんNo.10	12	ほっとホット琵琶湖 冬の旅ご案内 映像システム活用事例 滋賀県立琵琶湖博物館 街 出かけてみませんか 琵琶湖博物館展示ガイドより資料提供 琵琶湖博物館の魅力を探る 中部圏観光宣伝イラストマップタペストリー 博物館だより 滋賀県立博物館第6回企画展示 続水道風土記 お国自慢膝栗毛 滋賀県立琵琶湖博物館第6回企画展示 女正月の旅 滋賀県立琵琶湖博物館 県立琵琶湖博物館 企画展示「絶滅と進化」 琵琶湖博物館 もよおしものお知らせ 湖と人、人と環境を考える場を提供する滋賀県立琵琶湖博物館 ネイチャーガイド 滋賀県立琵琶湖博物館 琵琶湖湖岸めぐり 滋賀県立琵琶湖博物館 博物館の宝物 日本最大の縄文時代貝塚のはぎとり資料 子どもよ、友に宇宙と古代のロマンに夢を馳せよう。 滋賀県立琵琶湖博物館 日本の市民参加型ミュージアム 滋賀県立琵琶湖博物館 琵琶湖博物館整備事業 関西遊園地&テーマパーク	JTBパンフレット
		Club Fame NO.171	パイオニア株式会社カタログ		
		じゃらん No.10	日本道路公団機関誌 VOL. 5		
		OPEL NEWS VOL. 4	守高新聞 第131号 中部圏広域観光推進連絡協議会		
		れいかる 秋号	日本地質学会News		
		西近江しんぶん 10月	Water & Life 1月号		
		月刊タウン情報 ぎふ No.276	日本地質学会News 1月号		
		東海ウォーカー No.22	fu [ふう] No.16		
		月刊オール関西 10月号	れいかる 冬号		
		シティマニユアル '99	びいめ〜る VOL. 6		
		月刊フリーロード 11月号	CIAC REPORT VOL.60		
		博物館を考える	CITY MAGAZINE マイ奈良 シティマニユアル京都 '99 日経サイエンス 3月号 CALACO mama 2月号 砂丘発見倶楽部(パネル)		
LEWLET'S Vol.455					
昆虫フィールド No. 3					
びいめ〜る VOL. 5					
休暇村近江八幡 パンフレット					
教育しが No.152					
12	琵琶湖一周くるま旅 人気抜群の琵琶湖博物館へ	旅行読売 12月号	3		ふるさとづくりキーワードbook るるぶ情報版

5 テレビ放映・ラジオ放送（取材）記録

月 日	タイトル	テレビ会社名等	月 日	タイトル	テレビ会社名等	
4	16 中国湖南省、滋賀県取材	中国湖南電子台	9	20 こちら海です	KBS京都テレビ	
	17 遊びスクランブル	びわこ放送テレビ		20 高校生クイズ		読売テレビ
	19 所さんの目がテン	読売テレビ	10	2 関西ふれあいラジオ「週末とっ ておき情報」	NHKラジオ	
5	9 遊びに行こっ！	愛知テレビ		9 ニュースパーク関西	NHKテレビ	
	17 平成11年度放送大学「環境社 会学」	放送大学		16 探偵ナイトスクープ	テレビ朝日	
	19 MONOモノ倶楽部	読売テレビ		18 サンデー11しが「近江米とた んぼ探検！」	びわ湖放送テレビ	
	19 平成11年度放送大学「博物館 概論」	放送大学		19 ニュースパーク関西 滋賀ウィー ク 琵琶湖博物館より生中継	NHKテレビ	
	20 おはよう川村龍一です MB Sゴールデンエイジ	毎日放送ラジオ		23		
6	4 水源地見学バスの旅	吹田市CATV		20 スーパーJチャンネル	テレビ朝日	
	21 サンデー11しが	びわ湖放送テレビ		23 ギャラリー展示について	テレビ大阪	
	23 古代湖が育む生きものたち	NHKテレビ		11	3 FM FESTIVAL'98	FMしが
7	10 ズームイン！！朝！	読売テレビ			18 サンデー11しが	びわ湖放送テレビ
	24 ふるさとホットライン	メトロポリタンテレビ	30 おはよう関西	NHKテレビ		
	26 サンデー11しが	びわ湖放送テレビ	12	9 滋賀県だより	KBS滋賀ラジオ	
	28 夏のラジオセミナー	NHKラジオ		10 日本に来た生きもの	NHK教育	
	28 おはよう川村龍一です	毎日放送ラジオ		19 くるーり南湖、淡海探訪（ビ デオ）	滋賀県道路公社	
	29 ワイドABCDE～す	朝日放送				
8	1 新発見！みずのまち草津	KBS京都テレビ	1	4 日本に来た生き物	NHK教育	
	8 菌のひろば	KBS京都テレビ		5 午後6時のニュース	びわ湖放送テレビ	
	11 たかしのぶっちゃけ万歩	KBS京都テレビ		11 テンシンボックス	NHK教育	
	11 午後6時30分のニュース	朝日放送		23 紺野美沙子の科学館	テレビ朝日	
	14 ニュースパーク関西	NHKテレビ		26 たけしの万物創世紀～タンガ ニーカ湖特集	テレビ朝日	
	14 午後6時のニュース	びわ湖放送テレビ		26 びわこの魚物語（仮題）平成 12年度放送予定	NHKテレビ	
	22 ニュース「夏休み相談室」に ついて	テレビ朝日	2	1 かんさいスクエア	NHKテレビ	
	22 ニュース「夏休み相談室」に ついて	MBSテレビ		5 ぶるるるるびわこ	びわ湖放送テレビ	
	9	8 おはようコールABC		朝日放送	28 欽ちゃんとみんなでしゃべっ てわらって	NHKテレビ
		11 ニュース		テレビ朝日		
11 教育ウィークリーレポート		びわ湖放送テレビ	3	11 笑福亭晃瓶のほっかほっカラ ジオ	KBS京都	
14 The Fishing		テレビ大阪				

III 組織および運営

1 組織



職員構成（平成11年3月31日現在）

区分	館長(非常勤)	行政職	研究職	教育職	小計	嘱託等	合計
人数(名)	1	13	27	2	43	15	58

2 職 員

1998年4月1日現在

- 館 長 川那部 浩 哉
- 副 館 長 西 岡 信 夫

総 務 部

- 部 長 的 場 功 巳
- 研究交流総括 嘉 田 由 紀 子

◇ 総務課

- 課長(兼) 的 場 功 巳
- 課長補佐 千 代 文 一
- 専 門 員 菊 井 吉 之 蒸
- 調 査 員 小 森 啓 二
- 主任主事 馬 場 聡 史
- 同 安 井 和 治
- 主 事 渡 邊 裕 也
- 同 西 村 佳 子
- 同 皆 黒 一 恵

◇ 企画調整課

- 課長(兼) 前 畑 政 善
- 専 門 員 森 野 泰 起
- (兼) アンドリュウ ロンター
- (兼) 中 井 克 樹
- (兼) 亀 田 佳 代 子

事 業 部

- 部長(兼) 布 谷 知 夫

◇ 展示科

- 科長(兼) 高 橋 啓 一
- (兼) 美濃部 博
- (兼) ジョン ジャック フレネット
- (兼) 松 田 征 也
- (兼) 芦 谷 美 奈 子
- (兼) 牧 野 久 実
- (兼) 八 尋 克 郎
- (兼) 橋 本 道 範

◇ 交流センター

- 科長心得(兼) 楠 岡 泰
- 主査(併任) 高 橋 政 宏
- 主査(併任) 江 島 穰
- (兼) 水 上 二 己 夫
- (兼) 桑 村 邦 彦
- (兼) 草 加 伸 吾
- (兼) 宮 本 真 二

◇ 資料科

- 科長心得(兼) 用 田 政 晴
- (兼) 内 田 臣 一
- (兼) マーク ジョセフ グライガー
- (兼) 桑 原 雅 之
- (兼) 里 口 保 文

◇ 情報センター

- 科長心得(兼) 秋 山 廣 光
- (兼) 戸 田 孝
- (兼) 山 川 千 代 美
- (兼) 中 藤 容 子
- (兼) 芳 賀 裕 樹

研究部

○部長(兼) 中島 經夫

◇ 湖沼研究系

総括学芸員 中島 經夫

◎主任学芸員 楠岡 泰

同 アンドリュウ ロシター

同 戸田 孝

同 中井 克樹

学芸員 松田 征也

同 芦谷 美奈子

同 中藤 容子

学芸技師 牧野 久実

同 芳賀 裕樹

同 亀田 佳代子

同 里口 保文

◇ 博物館学研究系

◎総括学芸員 布谷 知夫

主任学芸員 秋山 廣光

同 マーク ジョセフ グライガー

学芸技師 橋本 道範

(兼) 高橋 政宏

(兼) 江島 穰

◇ 集水域研究系

総括学芸員 嘉田 由紀子

◎専門学芸員 高橋 啓一

主任学芸員 草加 伸吾

同 内田 臣一

同 ジョン ジャック フレネット

学芸員 山川 千代美

学芸技師 八尋 克郎

◇ 応用地域研究系

◎専門学芸員 前畑 政善

専門員(兼) 水上 二己夫

主任学芸員 用田 政晴

調査員(兼) 美濃部 博

主査 桑村 邦彦

学芸員 桑原 雅之

同 宮本 真二

注) ◎は各研究系代表

臨時的任用職員・嘱託員

木戸 亜津子 総務事務

小菅 由有子 館長秘書

川崎 真紀子 同

山中 裕子 ディスカバリールーム運営

瀬川 也寸子 同

谷崎 誠三 展示物の製作・維持補修

村瀬 忠義 植物標本整理

馬場 加依子 地学標本整理

矢野 健 昆虫標本整理

細川 真理子 歴史民俗資料整理

小関 義正 実習補助・団体利用受付

勝島 治美 生活実験工房運営

吉村 仙二郎 同

濱尾 研児 メディアラボ印刷・業務機器保守管理

生津 恵子 図書情報利用室運営・図書資料整理

3 予 算

平成10年度歳入状況 (円)

科 目	決 算 額
使用料及び手数料	279,949,818
財 産 収 入	4,165,500
雑 入	185,363
合 計	284,300,681

平成10年度歳出状況 (円)

事 業 名	事 業 内 容	決 算 額
管 理 運 営 費	施設維持費、烏丸半島整備、事務費	398,813,272
調査資料収集事業費	研究費、研究備品、資料収集製作、資料整理保管、水族飼育	269,406,307
展 示 事 業 費	企画展示、常設展示、展示維持管理、展示用印刷物	256,172,661
情報交流事業費	情報システム管理、データ入力、図書整備、交流事業開催、フィールドレポーター	134,524,250
合 計		1,058,916,490

4 滋賀県立琵琶湖博物館協議会

- 開催日時 平成10年11月30日(月) 13:30 ~ 16:30
- 場 所 琵琶湖博物館セミナー室
- 出席者 委員 11名、事務局
- 議 事 ① 琵琶湖博物館1年間の事業報告
② 今後の事業運営について

第2期委員

(任期：平成10年9月1日～平成12年8月31日)

氏 名	現 職
浦 谷 清 子	滋賀県小学校長会 会計監事
畑 治 成	滋賀県中学校理科教育部会 会長
吉 本 由理子	滋賀県青年団体連合会 監事
徳 島 りつ子	日本青年会議所 業種別運営会議飼料畜産部会長
原 田 英 司	京都大学 名誉教授
西 野 嘉 章	東京大学総合研究博物館 教授
栃 本 武 良	姫路市立水族館 館長
鄭 大 聲	滋賀県立大学人間文化学部 教授
齋 藤 一 美	NHK大阪放送局 専門委員
上 野 勝 代	京都府立大学人間環境学部 教授
岡 本 幸 助	滋賀県脊髄損傷者協会 会長
日 高 敏 隆	滋賀県立大学 学長
中 村 正 久	滋賀県琵琶湖研究所 所長
南 真 司	滋賀県議会 琵琶湖環境農政水産常任委員長
古 川 研 二	草津市長

Ⅳ 平成10年度博物館ダイアリー

・印は、行事等を示す

月 日		主な来館者・行事等	月 日		主な来館者・行事等
4	1	鈴鹿市議会	6	4	大阪シニア自然大学
	3	金沢学院大学文学部		関西電力エネルギー研修所	
		日中湖沼環境研究会		和歌山県企画総務課	
	4	シリア水資源省		文化財保護研修生	
		タイ国土開発局		5	「世界環境の日」記念行事シンポジウム
	7	滋賀県新規採用職員研修		フローティングスクール	
		国土庁		6	竜王町立竜王中学校
	14	博物館新入職員研修		全日本博物館学会	
	16	北九州市技術監理課		滋賀県信用保証協会	
		名鉄観光中部支社研修		8	第39回BCS賞現地審査
	21	岐阜県企画調整課		9	・館長対談（平山郁夫氏）
		上海市代表团		10	LBM研究交流セミナー
	22	琵琶湖工事事務所等		11	近畿ブロック飼育技術者研究会
	23	草津市教育委員会		12	モンゴル国立大学
	中国北京大学		自治大学校研修生		
24	全国市長会他		湖南省人民政府招商代表团		
26	名古屋地理学会	13	滋賀県立東大津高等学校		
	近畿建築士会		今津町教育委員会		
28	エルダーホテル協会	16	草津市教育委員会		
29	大阪府旅行業協会	17	江戸東京博物館		
30	・館長対談（ベルニー・ズボルフスキー氏）		全国市町村国際文化研修所		
5	8	大津地方裁判所司法修習生研修	18	・滋賀県博物館協議会総会	
	9	碧南市青少年海の科学館	19	JICA研修	
		立命館大学文学部		近畿地区公立学校建築技術協議会	
	10	兵庫水辺ネットワーク	20	成安造形大学	
	12	青森県八戸市市議会		立命館大学	
	14	守山市総合発展計画策定懇話会	23	埼玉県自然史博物館	
	15	山梨県教育委員会学術文化財課	24	大阪大学留学生	
		福岡県大牟田市議会	25	滋賀大学教育学部	
		和歌山県新宮市議会		水資源開発公団	
	16	滋賀理科サークル		人事院初任行政研修生	
	19	厚生省企画課監査指導室		滋賀県総合教育センター	
		静岡県清水町議会	26	JICA研修	
	20	岡山市立オリエント博物館	27	・第一回博物館研究発表会	
	21	・滋賀県博物館協議会理事会	28	大和未生流滋賀支部	
	熊本県文化企画課	29	環境庁企画課		
22	リオグランデ・ド・スール州交流団	30	青森県企画部地域振興課		
23	日本展示学会	7	1	滋賀県立大学	
	島根県景観自然課		2	全国私立保育園連盟	
26	近畿教育委員会指導事務主管課長会議		3	勸業早湾地域振興基金	
	自治省			北九州市企画局	
27	文部省社会教育課			奈良シルクロード博記念国際交流財団	
28	沖縄県平和推進課			ミシガン州交換留学生	
6	2		彦根市立稲枝中学校	4	滋賀県中学校理科研究部会
	3		佐賀県教育委員会文化課	5	滋賀県青年団体連合会
		自治大学校OB会	7	滋賀県八日市民生委員	
		滋賀県立甲西高等学校		栃木県児童家庭課	
		建設省琵琶湖工事事務所	8	信楽町立信楽中学校	

月日	主な来館者・行事等	月日	主な来館者・行事等
7 8	秋田県立博物館 中国河南省考古研究所	8 28	滋賀県修学旅行誘致促進協議会
9	全国歴史資料保存利用機関連絡協議会 環境庁自然保護局	30	三重の里山を考える会 ・水族企画展「南の島の魚たち」終了
10	京都府立東宇治高等学校	9 1	ミシガン国際交流研修生 阪神水道企業団 TEPCO銀座館
13	運輸省近畿運輸局	2	国土庁 大阪府水道事業懇話会
14	蒲生・神崎ブロック派遣社会教育主事研修 国際青年育成交流事業（生涯学習課）	3	アジア太平洋統計研修所 立命館大学衣笠研究センター 近畿運輸局
15	近畿・中国・四国・地域果樹研究協議会	4	十四山村ふるさと創生事業推進委員会
16	島根県教育委員会文化課 岡谷市議会 農林水産省大臣官房	5	滋賀県青年団体連合会
17	建設省琵琶湖工事事務所	6	立命館大学国際平和ミュージアム
18	・企画展「近江はトンボの宝庫」開催（～9/23） ・水族企画展「南の島の魚たち」開催（～8/30）	14	環境庁
20	琵琶湖環境円卓会議（環境政策課）	15	長野県生活環境部環境自然保護課
22	衆議院環境委員会	18	・防火訓練
23	大阪府下町村教育委員会委員 近畿高校教育研究協議会	25	水資源開発公団 国立歴史民俗博物館 湖南中部リゾートツアー
25	仏教大学博物館実習	26	NHK自然観察教室
28	滋賀県立石部高校	27	東南アジア猛禽シンボ実行委員会
29	兵庫県教育委員会社会教育・文化財課 関西大学博物館実習	28	・博物館研究審査会（～9/29）
30	京都市歴史資料館 鳥取県総務	29	大潟村企画課 大分市環境審議会 滋賀県町村会研修
31	大津市仰木の里公民館 JTB首都圏営業本部教育旅行研修会	30	都市未来研究会（日本理水設計株式会社） 山口県萩市教育委員会 ・試験研究機関連絡調整会議
8 3	・博物館実習開校（～8/10）	10 1	国立民族学博物館 JICA研修（日本水環境学会）
4	阿智村教育委員会	6	琵琶湖ラムサール会議
5	鹿児島県議会 長野県原村図書館協議会	7	東京旅行記者クラブ
6	千葉県鎌ヶ谷市郷土資料館 滋賀県中学校理科部会自然調査ゼミ	8	広島県議会 東海地区科学施設協議会 水戸市立博物館
7	（働）地方債協会 北方少年少女派遣事業（根室中学校）	9	福岡市環境審議会 千葉県船橋市議会
8	大阪自然大学	10	日本建築学会博物館建築研究会
11	滋賀県建設技術センター	11	滋賀県青少年育成県民会議 ミシガン州立大学連合代表メンバー
12	（働）滋賀県国際友好親善協会	12	近畿ブロック砂防主管課長会議 （働）埼玉県公園緑地協会 鳥取県議会（福祉環境警察常任委員会） ギャラリー展「ワクワクたんぼ探検」開催 （～11/15）
19	守山市立物部小学校研修会	14	下水道科学館（大阪） 自治省会計課
20	流域管理における下水道のあり方検討委員会（下水道建設課） 宍道湖沿岸自治体首長会議 水資源開発公団関西支社	15	福島県議会 岡山県総社市教育委員会 第7回世界地方都市十字路会議実行委員会 阪神水道企業団
21	ミズアオイ研究会		
22	中国上海市「希望の星」教育使節団 草津チャレンジクラブ 愛知県瀬戸市議会		
23	文部省生涯学習局社会教育課		
25	愛知県稲沢市議会		
26	守山市立図書館 美原町区長会 石川県門前町教育委員会		

月日	主な来館者・行事等	月日	主な来館者・行事等
10 16	京都大学農学部 関西新空港協議会 （勸）東海建築文化センター でんきの科学館 文部省学習情報課	11 19	兵庫県篠山土地改良事務所
17	• 「農と環境を考えるつどい」館長対談（アン・マクドナルド氏） 都市環境管理技術研究会	20	東京大学総合研究博物館 時事通信社大津支社
20	新しい博物館を考える懇話会 信楽高原鉄道	21	文部省大臣官房政策課
22	• 学芸職員採用第一次考査	22	倉敷科学センター協議会
23	生態学琵琶湖賞授賞式 山口県県民生活課 湖南中部リゾートツアー	25	三重県大気水質課 北海道開拓記念館 リゾート整備アドバイザー研修
24	ミシガン州オークランド郡 下之郷遺跡研究会 金沢森本ライオンズクラブ	26	滋賀県立消費生活センター 坂田郡中学校教育研究会理科部会 京北町地方振興局
26	• 第1回中長期計画検討委員会	27	内閣法制局
27	教職員経験者研修	28	大阪市立大学地球学科 愛知県豊田市矢作川研究所
28	日本下水道事業団 滋賀県河川漁業協同組合連合会 琵琶湖淀川水質会議 （勸）日本宝くじ協会	29	湖南省少年芸術交流団
29	静岡県浜名郡町議会 JICA研修	30	• 琵琶湖博物館協議会開催
30	国土庁水資源部水資源計画課 大津市立真野中学校	12 1	豊田市文化財保護審議会
11 2	滋賀県議会琵琶湖環境農政水産常任委員会	2	国立水俣病総合教育センター
3	フランス国立自然史博物館ルエ・マリ氏来館	4	自治省選挙部選挙課 中国日本友好協会代表団 試験研究機関連絡会議
5	鳥取市教育委員会 近畿市議会議長会	6	近畿地区子供会育成指導者協議会
6	淀川左岸治水促進期成同盟 自治省交付税課 近畿ブロック情報管理主管課長会議	8	仏教大学四条センター 滋賀県立日野高等学校 茅ヶ崎市教育委員会
8	木之本町教育委員会	9	滋賀県立水口高等学校 国立歴史民俗博物館
10	島根県大社町議会 近畿地区私学教育研究会 静岡県豊田町土地改良区 （勸）岩手県観光開発公社	10	大阪市街地再開発促進協議会
11	青森県教育庁文化課 近江八幡市議会	11	一水会環境管理研究会 JICA研修
12	国立科学博物館 鹿児島県文化財課 埼玉県営繕技術者会議	12	東南アジア猛禽類シンポジウム（～12/13）
13	静岡県立登呂博物館	16	福島県教育委員会
15	大阪自然大学	17	大阪商工会議所 熊本県地域政策室
17	滋賀県立守山高等学校 茨城県自然博物館教育課	19	京都工芸繊維大学工芸学部
18	名古屋市科学館 総務庁研修 浜松市教育委員会	22	• 館長対談
19	滋賀県教育課題特別研修	1 9	静岡県教育委員会社会教育課 環境アドバイザー
		13	近畿ブロック物産観光連絡協議会
		14	• 内覧会「企画展 絶滅と進化」 ホメオ京都
		15	• 企画展「絶滅と進化」開催（～4/11） 里山林ふれあいフォーラム
		19	滋賀県立学校初任者研修
		20	文部省中学校課 島根県文化財課
		21	滋賀県歴史資料担当者研修会 滋賀県立玉川高等学校
		26	JICA研修 茨城県生活環境霞ヶ浦対策課 自治大学
		27	ラオス国一般研修員（JICA）

月日	主な来館者・行事等	月日	主な来館者・行事等
1 27	建設省琵琶湖工事事務所 滋賀県デステイネーションキャンペーン	3 2	建設省中国福山工事事務所 ・試験研究機関連絡会議 名古屋港水族館 石川県自然史資料整理室 自治省財政局準公営企業室 和歌山県海草振興局 沖繩博物館ボランティア研修会 岐阜女子大学 OECD事務局カーヒル課長他 10 全国科学博物館協議会総会 (～3/12) 江戸東京博物館 近畿府県教育委員会同和教育指導主事研修会 関西電力(株)滋賀支店 11 県立大学試験研究機関協議会 国土庁大都市圏整備局計画課 山口県博覧会推進局 12 近畿日赤支部 16 福岡県国立博物館対策室 18 中長期計画検討委員会開催 大阪府市町村下水道担当職員研修 (株)広島市森林公園昆虫館 19 守山市立守山中学校 24 大津湖南地方税協議会 25 大野市教育委員会 福岡市博物館 石川県立金沢泉丘高等学校 26 長野県飯田市観光協会 近畿地方建設局
28	千葉県野田市議会		
29	川崎市青少年科学館 日本下水道事業団		
2 2	JICA研修 山梨県農政部長農産課長他		
3	京都府・滋賀県知事対談 国立民族学博物館		
4	栃木県農務部農産課なかがわ水遊園整備室 岡山県都市教育委員会教育長協議会		
5	地方自治体行政コース(全国市町村国際文化研修所) 犬上郡環境教育部会		
6	中国・湖南省水利代表团 館長対談(朽木いきものふれあいの里)		
7	「世界湿地の日インビわ湖」記念事業		
9	(株)三宝延国際交流協会サイパン青少年訪日団		
11	日本旅のペンクラブ		
14	石狩川振興財団		
16	建設省河川局河川環境 長崎県五島農業改良普及センター 栃木県保健福祉部児童家庭課 岐阜市		
17	国立歴史民俗博物館		
18	滋賀県都市施設管理法人協議会 熊本県水資源開発室		
19	津山圏域企業協議会 文部省教科書課		
24	愛知芸術文化センター 静岡県(株)茶文化振興協会 建設省流域下水道課		
25	大韓民国環境部水質政策課 浜松市企画課(開湖500年祭実行委員会)		
26	能登川町教育委員会文化財保護審議会		

V 博物館利用のご案内

- 開館時間 AM 9:30～PM 5:00 (入館はPM 4:30まで)
- 休館日 毎週月曜日(休日である場合を除く)・休日の翌日(土・日曜となる場合を除く)
 - ・年末年始(12月28日～1月4日)
- 観覧料金(常設展)

	個人	団体(20人以上)	共通券(*)
小学生・中学生	250円	200円	320円
高校生・大学生	400円	320円	520円
大人	500円	400円	650円

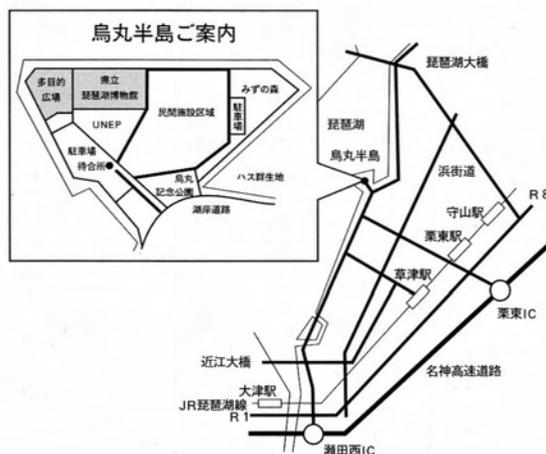
※未就学児、県内居住の65歳以上の方と障害のある方ならびに県内の学校行事としての観覧は無料です。
(詳細についてはご確認ください。)

※企画展は別途料金となります。(開催期間中)

*草津市立水生植物公園「みずの森」との共通券。なお、団体は取り扱いません。

■交通案内

- JR新幹線「京都駅」「米原駅」からJR琵琶湖線(東海道)線に乗り換え「草津駅」「栗東駅」「守山駅」で下車。
 - ・「草津駅西口」から、近江鉄道バス「烏丸半島」行きで「琵琶湖博物館前」下車(約22分)。タクシーで約20分。
 - ・「栗東駅西口」からタクシーで約15分、「守山駅西口」からタクシーで約20分。
- 車では、名神高速道路「栗東I.C」から国道1号線を草津方面へ。信号2つ目「上鉤」で右折。湖岸道路につき当たって(「湖岸志那中町」)再度右折し、約1kmで「烏丸半島」へ。
- 航路では、琵琶湖汽船のシャトルボートが「大津港」「びわこ大橋港」「堅田港」「雄琴温泉港」から「草津烏丸半島港」へ
(問い合わせ先:琵琶湖汽船 077-524-5000)



■駐車料金

大型バス	1,520円	マイクロバス	1,010円
普通車*	500円	二輪車*	200円

*博物館観覧者が使用する普通車と二輪車は無料扱いとなります。

【館内のご案内】

- 質問コーナー:学芸員が図書室のカウンターでみなさんからのご質問にお答えしています。
- フロアトーク:平日には学芸員がPM 2:00から担当の展示コーナーで説明を行っています。

【催し物案内】

- ミュージアム観察会:博物館のまわりで自然観察したり、館内の施設で実験・実習を行います。
- フィールド観察会:県内各地のフィールドで地域の自然や人々の暮らしを見つめ直します。
- 博物館探検:普段は見ることのできない博物館や展示室の裏側を学芸員が紹介します。
- 博物館講座:一般の方を対象に専門的な内容をわかりやすく数回連続でお話しします。
- 博物館入門セミナー:琵琶湖博物館の活動や展示を幅広く知ることのできる連続講座です。
(事前に往復ハガキで申し込んでください。詳しくは、Faxサービス(077-568-4844)、インターネットホームページ(<http://www.lbm.go.jp/>)で案内しています。)

琵琶湖博物館 年報 第3号

1999年(平成11年)10月 発行

編集・発行 滋賀県立琵琶湖博物館
〒525-0001 滋賀県草津市下物町1091
電話 077-568-4811

印刷 株式会社スマイ印刷工業

©滋賀県立琵琶湖博物館 1999

Printed in Japan

この冊子は古紙配合率100%の再生紙を使用しています。

